



トプコングループ CSR報告書

2014

トプコングループ CSR報告書

2014

Creativity & Growth 

発行・お問合せ先

株式会社 **トプコン** TOPCON CSR Committee (事務局 総務・人事部)

〒174-8580 東京都板橋区蓮沼町75-1 TEL:03-3558-2893 FAX:03-3558-0705

<http://www.topcon.co.jp/>



トプコングループ CSR報告書 2014

CONTENTS

ステークホルダーの皆様とともに	01
会社概要	02
財務情報	02
トップメッセージ	03
CSRマインド	04
CSRの取り組みと目標	05
『CSV(Creating Shared Value)をはじめとする社会貢献活動報告』	
欧米地区での活動	07
アジア地区での活動	09
トプコンのガバナンスについて	11
内部統制システムについて	12
コンプライアンス教育について	13
グローバル輸出管理体制の維持・強化について	13
情報セキュリティ・個人情報保護について	14
品質向上活動について	15
ISO9001認証取得について	15
調達パートナーとの活動	16
サプライヤー向け経営方針説明会	16
人事制度等	17
労働時間・休暇制度・業務上災害について	18
国連グローバル・コンパクトに関する活動	19
トプコングループ環境ビジョン2020	19
トプコングループの環境負荷量報告(2013年)	20
トプコンの環境負荷報告(2013年)	20
環境負荷低減に関する取り組み	21
欧州における省エネルギー活動	21
トプコングループ「ISO14001」審査状況	21

第三者意見	22
第三者意見を受けて	22

編集方針 — CSR情報の開示について —

トプコングループは2001年に環境報告書を発行して以来、ステークホルダーの皆様へ、CSRに関する情報をお伝えするよう努めています。2006年には社会性に関する情報も盛り込み、新たにCSR報告書として社会・環境面でのトプコングループの取り組みをお伝えしてまいりました。9冊目となる本報告書では、2013年版に引き続き、TOPCON WAYに基づくCSV(Creating Shared Value: 社会とトプコングループ双方が価値を見出せる活動)及び社会貢献活動を集めました。また新たに制定した『人権の柱』となる新人事

制度や『Topconian:トプコン人』の説明にもページを確保し、今後特に注力して行く分野を明確にするように致しました。なお、引き続きTOPCON WAY視点での記事配置をおこなっております。トプコングループは2007年より国連グローバル・コンパクトに参加しており、参加要件の一つであるGC10原則(人権、労働、環境、腐敗防止:P19)でご説明しています)に関する年次活動報告(COP)の提出を求められています。本報告書はそのCOPとしての側面もあります。

■発行時期 今回/2014年6月(前回/2013年5月)

■参考にしたガイドライン
ISO26000(社会的責任)
GRI(Global Reporting Initiative)ガイドライン 第4版
環境省「環境報告ガイドライン2012年版」

※本報告書の色使いや文字フォントは、色覚の弱い方にも見易くなるよう工夫しております。

ステークホルダーの皆様とともに

トプコンは、株主に対し、適時・適切な情報開示を行い、信頼関係の形成と企業価値向上に努めます。



トプコングループは、「TOPCON WAY」や事業行動基準等にありまを通り、株主の皆様をはじめ当グループに関係ある、ステークホルダーの皆様へ、法令等に基づき適時・適切な情報の開示をおこない、皆様との信頼関係の構築と企業価値向上に努めてまいります。

- 2011年4月、「経営理念」、「経営方針」、「事業行動指針」を統合・再編し、トプコングループ最上位の価値観として「TOPCON WAY」を制定しました。
<http://www.topcon.co.jp/news/20110428-7024.html>
(「TOPCON WAY」の制定について)
- 社会・環境活動のページには、本報告書や過去の報告書のPDF版、本報告書に掲載しきれなかった追加環境情報の他、CSRに関する方針類等を掲載しています。
<http://www.topcon.co.jp/csr/index.html> (社会・環境情報)
<http://www.topcon.co.jp/csr/code/index.html> (トプコン事業行動基準)
<http://www.topcon.co.jp/csr/policy/index.html> (CSRに関する主な方針)
- 投資家情報(IR)のページには株価や財務関連情報他、上記Webサイトに関する評価等を掲載しています。
<http://www.topcon.co.jp/invest/index.html> (投資家情報(IR))
- トプコングループの事業や環境、製品に関する分かりやすい解説を、個人投資家向けページに掲載しています。
<http://www.topcon.co.jp/invest/individual/index.html> (個人投資家のみならず)

トプコングループのWebサイトは、以下の通り複数の外部評価機関より高い評価をいただいています。



会社概要

- 会社名 株式会社トプコン (TOPCON CORPORATION)
- 設立 1932年9月1日
- 本社所在地 東京都板橋区蓮沼町75-1
- 代表者 代表取締役社長 平野 聡
- 資本金 16,638百万円(2014年3月末現在)
- グループ 国内8社、海外53社 (2014年3月末現在の連結子会社)

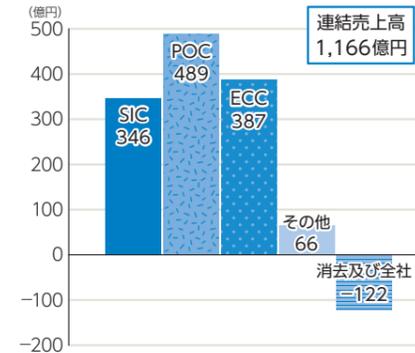
- 社員数 3,977名 (トプコングループ合計/2014年3月末現在)
- 事業内容 スマートインフラ(測量機器、3次元計測、GIS、移動体制御)、ポジショニング(GPS、マシンコントロールシステム、精密農業)、アイケア(眼科用検査・診断・治療機器、眼科用ネットワークシステム、眼鏡店向け機器)等の製造・販売
- 支持をしている主なCSR関係の国際憲章 国連グローバル・コンパクト

トプコングループ



財務情報

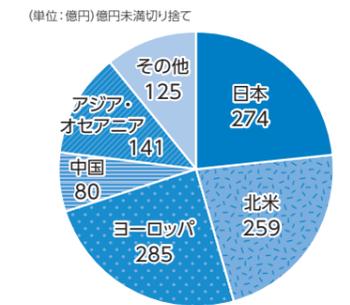
◆連結売上高



◆営業利益、当期純利益



◆国別売上高



- <http://www.topcon.co.jp/corporate/index.html> (会社概要)
- http://www.topcon.co.jp/invest/individual/ir_library/securities/ (有価証券報告書)
- <http://www.topcon.co.jp/corporate/outline/> (事業内容・基本戦略)

【トプコンはグローバルトップを目指します】

当社は2014年3月期の決算において大幅な増収・増益を実現し、すべての公表値をクリア致しました。「事業構造改革から成長戦略へシフト」と定めた当社の中期経営のビジョンにおいては、独創的な発想による利益ある持続的成長を実現し、「Creativity & Growth」「創造と成長」を新たなスローガンに掲げ、全社一丸となってグローバルトップを目指しております。また経営戦略の柱に、新規事業の開拓と基盤事業の強化、破壊的戦略商品の上市、グローバル人材の積極的活用の3つを掲げ、2015年度にはROE20%の目標達成を目指し、更なる企業価値の向上に努めております。

【TOPCON WAYに基づく社会への貢献】

2011年4月、トプコングループの未来を創造する最上位の価値観であるTOPCON WAYを制定し、当社のコアテクノロジーである、幅広い波長領域を網羅する光の可能性の探究を通じ、お客様が気付かれていない潜在的な要望に応えるTM-1 (Time to Market No.1) 製品を開発し、これまでにない新たな価値を創造することにより、永く人類社会に貢献することを宣言致しました。

当社の事業領域である、土木施工におけるGNSS(GPS)を基盤としたICT自動化施工と食糧生産性向上に貢献するIT農業関連製品や、測量事業を基盤とした環境負荷低減を目指した土木建築BIM(Building Information Modeling)、先進国で社会問題となっているインフラ劣化診断、ICT防災関連製品、また眼科検査・診断分野を基盤とした予防から治療分野に亘る製品で、目の健康やさまざまな疾患の早期発見、治療に貢献できるOCT(Optical Coherence Tomography)、眼科用光凝固装置関連製品などの製品供給により、人類社会への貢献を果たして参ります。

【Topconian トプコニアン育成】

グローバルに事業を展開し、日本以外の国籍を有する社員が60%を超える当グループにとって、社員の基本的な人権を尊重し、最適な業務遂行環境を提供する事は、事業の発展に欠かせないことと捉えております。また、経営ビジョンである「メーカーとしてのものづくりこだわり、イノベーションを世界に広め続けることで持続的な成長を目指す」および「コンプライアンス最優先の価値観により、全てのステークホルダーから信頼される存在であり続ける」を実現する為には、目指す組織の姿を明

確にし、当社が求める人材(Topconian、トプコン人)を育成する事が重要と考えました。「人材の成長」=「事業の成長」と捉え、グローバルトップを目指し、グループ・グローバルで『Topconian』の育成に注力して参ります。

【グローバル・コンパクトの精神を基調に】

2007年に国連グローバル・コンパクトの趣旨に賛同し、以来「人権」「環境」「労働」「腐敗防止」に関する10原則の理念を、TOPCON WAYをはじめとする経営理念やグループの戦略、文化、日常業務、Topconianを定義する上での礎とする等、積極的に採り込んでいます。

私たちトプコングループは、引き続きTOPCON WAYに基づく事業体質及び企業風土の改革を通じ、利益ある持続的成長を目指し、ステークホルダーの皆様の信頼にお応えする存在であり続けたいと考えます。

皆様の一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願いを申し上げます。



株式会社トプコン
代表取締役社長

平野 聡

TOPCON WAY



トプコンは、「光」のもつ可能性を探究し、未来に向けて新しい価値を創造し、豊かな人類社会の形成に貢献します。
Topcon studies the possibilities of "light," creates new values toward the future, and contributes to build a rich human society.



トプコンは、変化を先取りする先進性とコンプライアンス最優先の価値観により、すべてのステークホルダーから信頼される存在であり続けます。
Topcon will maintain a proactive and responsive attitude by foreseeing any changes and place the utmost priority on compliance under all circumstances, thereby continually striving to be a trustworthy partner to all stakeholders.



トプコンは、開発・設計、製造、販売、サービス、すべての段階で品質向上に最善を尽くし、信頼性の高い商品を提供し、お客様の事業を進展させます。
Topcon will do its utmost to improve quality in all stages from development and design to manufacturing, sales and service; supply products of the highest quality, and develop our customers' businesses.



トプコンは、代理店等の事業パートナーとの相互信頼とパートナーシップを尊重し、情報の共有と密接な連携により、共に事業を進展させます。
Topcon will build relationships of mutual trust and partnership with sales agents and other business partners, and mutually develop business through information sharing and close cooperation.



トプコンは、社員とのコミュニケーションを大切に、多様な個性や価値観、創造と革新の精神を尊重し、その能力を最大限発揮させます。
Topcon will implement two-way communication with employees, and will respect diverse individualities, values, and the spirit of creation and innovation, and maximize the employees' skills.



トプコンは、国際・地域社会の一員として、人権・環境・労働・腐敗防止のグローバル基準を尊重し、持続可能な市場の構築に寄与します。
Topcon, as a member of the global and local community, will respect global standards concerning human rights, the environment, labor standards, and anti-corruption measures, and contribute to building sustainable markets.



トプコンは、株主に対し、適時・適切な情報開示を行い、信頼関係の形成と企業価値向上に努めます。
Topcon will appropriately disclose information to shareholders in a timely manner, work to build a relationship of trust with them, and continually strive to improve our corporate value.

- 【TOPCON WAY】は、世界各国・地域のトプコングループの役員、社員が国境や会社の枠を超えて共有する価値観、判断基準、行動の大原則です。
- 【TOPCON WAY】の1項目は「存在理念」、2項目は「存在条件」、3項目～7項目は「各ステークホルダーの皆様との関係」で構成されています。
- 【TOPCON WAY】の1項目の「光」は、トプコンの有する「電波から赤外線、可視光、紫外線、X線」までの幅広い技術を表現しています。

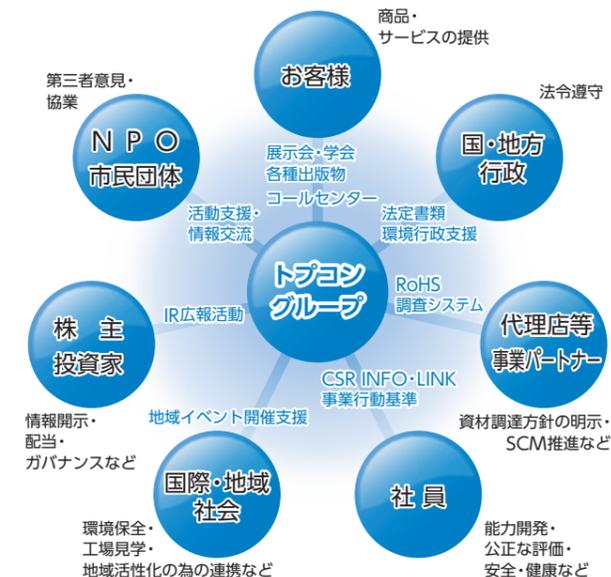
<http://www.topcon.co.jp/corporate/philosophy/> (TOPCON WAY)

CSRマインド

トプコンは、「光」のもつ可能性を探究し、未来に向けて新しい価値を創造し、豊かな人類社会の形成に貢献します。

ステークホルダーとトプコングループとの関係

CSR基本方針に基づき、社会問題の解決に資する商品の提供等とともに、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを重視し、事業活動を通じた社会貢献を目指します。



トプコングループでは、CSR報告書やWebサイト以外にも、上記の様に多様なコミュニケーションをおこなっています。

- ### CSR基本方針
- 1 グローバル企業にふさわしい価値観、基準を形成・共有し実践するため、CSR活動を経営の中に位置づけ、計画的に取り組みます。
 - 2 グローバル・コンパクトに掲げられるとおり、影響力のおよぶ範囲内で、人権、労働基準、環境、腐敗防止に関して、国際的に認められた規範を支持し、実践します。
 - 3 有用な商品の開発、製造、販売、サービスを通じて、人類社会への貢献を主体的・能動的に果たします。
 - 4 環境に配慮した事業プロセスの構築、商品・サービスの提供等により、環境経営を推進します。
 - 5 役員、社員一人ひとりの日常活動への定着、グループ・グローバルでの浸透、定着を図ります。
 - 6 積極的な情報発信により、トプコングループに対するすべてのステークホルダーの理解と信頼を獲得します。



CSRの取り組みと目標

TOPCON CSR Committee (CSR委員会)では、年度毎の活動実績を確認・評価し、翌年度に実施する活動の目標・計画を策定しています。2013年度の活動について

は、グループガバナンスの強化(国内外グループ会社への訪問教育)、グリーン調達ガイドラインの策定、使用化学物質の低減について、特に注力して取り組みました。

項目	2013年度の主な目標・計画	2013年度の主な実施事項	評価	2014年度の主な目標・計画	国連GC10原則との対比
コーポレート・ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> ●コーポレート・ガバナンス原則の浸透強化 ●コーポレート・ガバナンス原則/CSR教育実施 ●改訂版事業行動基準を国内グループ会社で批准 	<ul style="list-style-type: none"> ●管理者を対象とした教育を計画通り実施 ●教育を計画通り実施 ●計画通り国内グループ会社で批准 	○	<ul style="list-style-type: none"> ●コーポレート・ガバナンス原則の浸透強化(継続) ●コーポレート・ガバナンス原則/CSR教育実施(継続) ●グループガバナンスの浸透 	原則1~10
リスク・コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> ●社会情勢に応じたBCP見直し ●障がい者雇用率2.0%(法対応) ●コンプライアンス教育を計画通りに対象者に実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●直下型地震発生を想定したBCP見直し ●非常用備蓄品(食糧、飲料、簡易トイレ、毛布等)の更なる充実、衛星電話配布 ●障がい者の雇用率1.83%(一人不足) ●コンプライアンス教育を、教育内容をアップデートのうえ、海外グループ会社も含めて計画通り実施 	△	<ul style="list-style-type: none"> ●BCPのグループ会社への展開 ●非常用備蓄品の見直しと拡充 ●障がい者雇用率2.0%(法対応) ●コンプライアンス教育を計画通り実施 	原則1, 6
お客様への責任	<ul style="list-style-type: none"> ●TM-1活動の推進による新商品開発と提供 ●上流での事前検出力強化と未然防止への取り組み ●グループ会社を含めた総合品質保証体制のレベルアップ ●お客様情報の迅速なフィードバック推進 	<ul style="list-style-type: none"> ●リスク分析の実施とデザインレビューの強化による、開発遅延防止と品質向上の推進 ●品質月間及び各種イベントによる品質優先意識の啓蒙 ●グループ・グローバルな品質情報のフィードバック迅速化推進 	○	<ul style="list-style-type: none"> ●デザインレビュー強化による新製品品質の向上 ●変化点管理強化による製品品質の向上 ●内部監査体制強化による真因追究力向上 ●グループ・グローバルでのお客様苦情情報の一元化推進 	原則1
事業パートナーへの責任	<ul style="list-style-type: none"> ●グリーン調達基準の改定をおこない、サプライヤの化学物質管理の徹底化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ●グリーン調達基準を改定。禁止鉱物に関する項目等を追加 	○	<ul style="list-style-type: none"> ●新ガイドラインのサプライヤーへの周知徹底 	原則1, 2
社員への責任	<ul style="list-style-type: none"> ●メタボ対策(特定保健指導、社内企画)の実施 ●喫煙率の更なる低減 ●安全衛生でのグループ会社との連携強化、管理レベルの向上 ●人事制度の継続的改善 	<ul style="list-style-type: none"> ●メタボ対策を計画通り実施 ●禁煙活動を推進し、喫煙率27.1%(前年比101.5%) ●安全衛生にかかわる重点推進項目を、グループ内周知 ●新人事制度、人事理念制定 	○	<ul style="list-style-type: none"> ●より効果的な健康増進策を実施 ●喫煙率の更なる低減策を見直し ●社員の働く環境の更なる向上 ●Topconian教育をグループ・グローバルで実施 	原則2, 3
国際・地域社会への責任	<ul style="list-style-type: none"> ●環境配慮・省資源型商品及び医療・健康・生活向上に有用な商品・サービスの提供 ●国際ボランティア活動の継続実施 ●医療・学術機関への支援(製品の寄贈、寄付講座開設他) 	<ul style="list-style-type: none"> ●社会問題(省エネ、環境負荷低減、高齢化等)解決に有用な商品の提供 ●ボランティア活動を計画通り実施 ●支援を計画通り実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> ●環境配慮・省資源型商品及び医療・健康・生活向上に有用な商品・サービスの提供(継続) ●新たなボランティア活動の提案と実施 ●医療・学術機関への支援を効果的に実施 	原則1, 7, 8, 9
環境マネジメント体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ●監査を継続的に実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●工場と社員数の多いグループ会社6社に対し書類監査を実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> ●実地監査実施を検討 	
環境に配慮した製品の提供	<ul style="list-style-type: none"> ●販売比率の更なる向上 	<ul style="list-style-type: none"> ●環境調和型製品販売比率93.6% 	○	<ul style="list-style-type: none"> ●2013年度の数値以上を目指す 	
環境に配慮した業務プロセスの構築	<ul style="list-style-type: none"> ●地球温暖化対策の推進(CO₂排出量削減) CO₂排出量基準年度比:6.5%削減(東京都条例対応) ●資源の有効利用 ゼロエミッションの継続、排出量:前年度以下 ●化学物質管理 センター管理の強化、化学物質使用量:前年度以下 	<ul style="list-style-type: none"> ●CO₂排出量28.1%削減(基準年度比51%減) ●ゼロエミッション継続(排出量49%減) ●第二種有機溶剤使用量:10%削減(1,625kg) 	○	<ul style="list-style-type: none"> ●地球温暖化対策の推進(CO₂排出量削減) CO₂排出量基準年度比:12.0%削減(東京都条例対応)の継続的遵守 ●資源の有効利用 ゼロエミッションの継続、排出量:前年度以下 ●使用量を2013年度の目標値以下 	
環境コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ●行政・地域住民との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ●計画通り地域協調活動を実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> ●行政・地域住民との連携強化(継続) 	
株主・投資家への責任	<ul style="list-style-type: none"> ●株主・投資家への情報発信強化 ●外部評価の維持、アナリストカバレッジ数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ●Webサイトへの掲載情報の拡充(複数のホームページ評価機関より受賞) ●アナリストカバレッジ数維持(3件) 	○	<ul style="list-style-type: none"> ●株主・投資家への情報発信の更なる強化 ●外部評価の維持、アナリストカバレッジ数の増加 	原則1
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ●トプコングループ CSR 報告書の発行 ●CSRグループ媒体(CSR INFO・LINK)発行 ●参加する分科会の見直し ●トプコンWebサイトにおけるタイムリーな会社情報の開示 ●NPO法人と連携した社会貢献活動 	<ul style="list-style-type: none"> ●6月にホームページへ掲載(和・英) ●適宜発行 ●分科会へ積極参加し、CSR活動事例を共有 ●適時開示を実施 ●社会貢献事業をおこなうNPO法人と連携 	○	<ul style="list-style-type: none"> ●CSR報告書の計画的発行 ●発行内容見直しにより情報発信 ●分科会参加を通じベンチマーク実施 ●トプコンWebサイトにおけるタイムリーな会社情報の開示(継続) ●連携先の見直し等、効果的な社会貢献活動を推進 	

※ 評価欄について：目標値を100%にし、目標通りについては「○」、一部未達成や改善の余地がある場合には「△」、目標未達成は「×」と評価しています。

2013年度活動総括

CSR Committee 委員長

■ 2010年版のCSR報告書より、トプコングループCSR活動の、主な目標・実績・次年度の計画を報告しています。2011年版より「TOPCON WAY」視点での項目見直しと、自己評価欄の追加をおこないました。本年版については、2013年度の主な活動について報告をおこなっています。

2013年度活動総括

2013年度は概ね目標を達成しましたが、一部の項目で△がつかしました。障がい者雇用率についてはハローワーク等の人材紹介機関等を通じて雇用率を確保し、法定雇用率達成を目指してまいります。SNSガイドラインについては、未だ検討段階に有ります為、一旦項目より外しました。また、化学物質使用量等、既に削減の限界に達している項目が有ります。これらを含め、来年度以降に向けて目標・計画の見直しを図ってまいります。

※ 「TOPCON WAY」について
2011年4月より、トプコングループ最上位の価値観として、従来有った「経営理念」等を統合・再編し、「TOPCON WAY」を制定しました。本CSRの取り組みと目標については、WAYの各項目に即した色分けをし、配置しております。

『CSV (Creating Shared Value) 活動をはじめとする社会貢献活動報告』

トプコングループでは、持続的な人類社会への貢献を果たす為、社会とトプコングループ双方が価値を見出せる活動、いわゆるCSVへ活動をシフトしております。本特集では、2013年度に実施したCSV活動と、一般的な社会貢献活動について報告します。

Topcon Positioning Systems, Inc.の活動

社会貢献

2013年6月22日にカリフォルニア州リバモアでおこなわれた、アメリカがん協会主催の「リレー・フォー・ライフ®」イベントに参加しました。リレー・フォー・ライフは、がんと闘う人々を勇気づけ、がんに負けない社会をつくるためにおこなわれているチャリティーイベントです。トプコンチームは、イベント前後の社内での募金活動に加え、イベント当日も会場でブースを出し、リバモア地区の60以上の参加チームの中で、最も多額の19,628USドルの募金を集めました。同社はこの他にも奨学金提供をはじめとする、さまざまな社会貢献活動をおこなっています。



イベントの様子

Topcon Positioning Systems, Inc.の活動

社会貢献

Livermore Valley Winegrowers FoundationおよびWente Family Foundation for Arts Educationが共催する第19回リバモア・バレー・ワインオークションに寄付をおこないました。このワインオークションは第1回から今まで360万USドルの資金を集めており、集まった資金は、リバモア地域の子どもたちの生活向上のため、教育、健康面のサポートに使われています。

Topcon Positioning Systems, Inc. Topcon Europe Positioning B.V. Topcon Europe Medical B.V.の活動

学術支援

アイルランドのダブリン工科大学の測量学及び検眼学講座に、最先端のトプコン製品を提供しました。また、教育支援プログラムの一環として、「トプコンラボ」を開設しました。トプコングループは長年に渡る教育支援プログラムを実施しており、これまでに全世界で500校を上回る教育機関に対し、支援をおこなっています。



提供した測量機器及び医療機器(一部)

Topcon Medical Systems, Inc.の活動

眼科検診への継続的支援

Luxottica社主催のチャリティープログラムである「One Sight mission」へ継続参加し、Fresh Air Fund Camp(1.7万人以上の恵まれない子供達をサマーキャンプに招待し、併せて無償の検眼と眼鏡をプレゼントするイベント)への検眼機器提供と社員のボランティア参加により、活動を支援しました。



眼科検診の様子



ボランティアスタッフ

Topcon Medical Systems, Inc.の活動

社会貢献

7度目となるFood Driveを実施し、社員が長期保存可能な食糧を、感謝祭の食事として貧困世帯に提供しました。またEmmanuel Cancer Organization(小児がんと診断された子供達とその家族を支援する団体)への支援として、見舞金と食糧の支援をおこないました。また、米国海兵隊の主催するToys For Totsへ協賛し、恵まれない子供達におもちゃをプレゼントしました。

Topcon Denmarkの活動

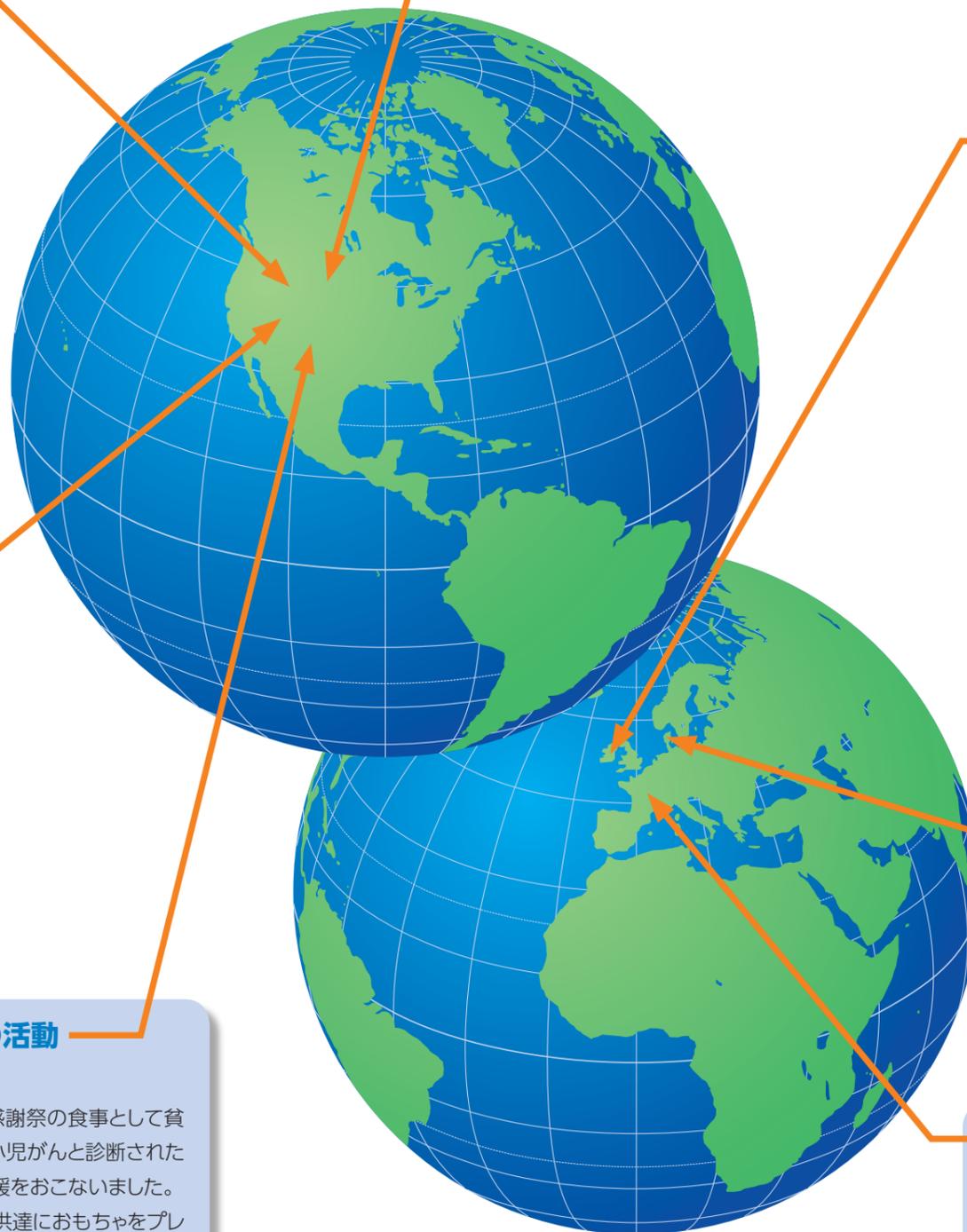
社会貢献

恵まれない子供達を支援する団体「SOS BORNEBYERNE」に対し、8,000デンマーク・クローネを寄付しました。

Topcon S.A.R.Lの活動

社会貢献

障がい者の就職活動を支援する団体へ1,264ユーロを寄付しました。



**Topcon Corporation
Topcon Singapore Positioning Pte. Ltd.の活動**

》》 人材育成への貢献

舗装道路の整備遅れによる慢性渋滞や、水道・電気等のインフラ整備率向上に貢献する為、ミャンマーのヤンゴン工業大学へ、測量機やオートレベルを寄贈しました。インフラ整備の中心を成す人材養成に貢献します。

贈呈式の様子



**Topcon Corporation
Topcon Singapore Medical Pte. Ltd.の活動**

》》 医療への貢献

医療従事者や機器不足問題解決の一助となるべく、ミャンマー保健省へ複数の眼科向け検査機器を寄贈しました。中でも3D OCT-1 Maestroは、熟練と経験が無くともフルオート撮影が可能で、これらの問題解決に大きく寄与します。機器は保健省経由で主要公立大学病院に設置される予定です。

贈呈式の様子



Topcon Instruments(Thailand) Co., Ltd.の活動

》》 学術支援

Rajchamongkon Isan大学の教授や学生向け、当社測量機器を使用した測量講座を実施しました。



測量講座の様子

Topcon Optical(Dongguan) Technology Ltd.の活動

》》 社会貢献

中国国内の貧困救済を支援している东莞慈善会石龍支店に10,000人民元を、また障がい者の生活、治療費を支援する為、障がい者協会へ88,672人民元を寄付しました。



感謝状

Topcon Instruments(Thailand) Co., Ltd.の活動

》》 学術支援

Khonkaen Road and Construction Centerへ、最新のGPS機器を用いた実機訓練を実施し、知識向上と技能習熟に貢献しました。他にもSurin病院やChonbri病院へ寄付をおこない、院内教育等へ貢献しました。

実機訓練の様子



トプコン、トプコン山形、オプトネクサスの活動

》》 教育・学術への支援

中学、高校、短大のインターンシップ(職場体験学習)を受け入れ、当社の「ものづくり現場」を体験して、将来の望ましい職業観・勤労観を身につける学習の手伝いを実施しました。



中高生による職業訓練

トプコン、トプコン山形の活動

》》 社会貢献

近隣小中学校PTAによる資源回収の回収場所として、また地方自治体の主催する消防演習への協力、お祭りの休憩場所として、敷地を提供しました。



敷地提供の様子

こちらで紹介している活動はほんの一部です。
トプコングループは、これからも事業活動を通じた社会貢献をおこなってまいります。



トプコンのガバナンスについて

コーポレート・ガバナンスに対する基本的な考え方

企業は、単に自由競争を通じて利潤を追求する経済的主体であるだけでなく、社会の公器として社会にとって有用な存在でなければならないと考えています。従って、トプコンのコーポレート・ガバナンスは、「経営の

健全性の維持」「経営の透明性の確保」および「経営効率の向上」を正しく達成し、当社企業経営に関わるすべてのステークホルダーに対し、社会的責任を果たしていくことであると考えます。

コーポレート・ガバナンス体制

トプコンは監査役会設置会社であり、監査役4名(うち社外監査役2名)が取締役の意思決定と職務執行を監査しています。取締役会は、6名の取締役(うち1名は東京証券取引所の定める独立役員に登録)から構成され、毎月1回の定時取締役会のほか、必要に応じて臨時取締役会を開催しています。社外取締役及び社外監査役は経営陣から独立した

中立性を保っています。また、トプコンは執行役員制度を採用し、日常の業務執行を執行役員に委ねています。取締役および取締役会による監督機能と執行役員による業務執行機能とを分離することにより、経営環境の急速な変化に迅速かつ適切に対応できる体制を採っています。

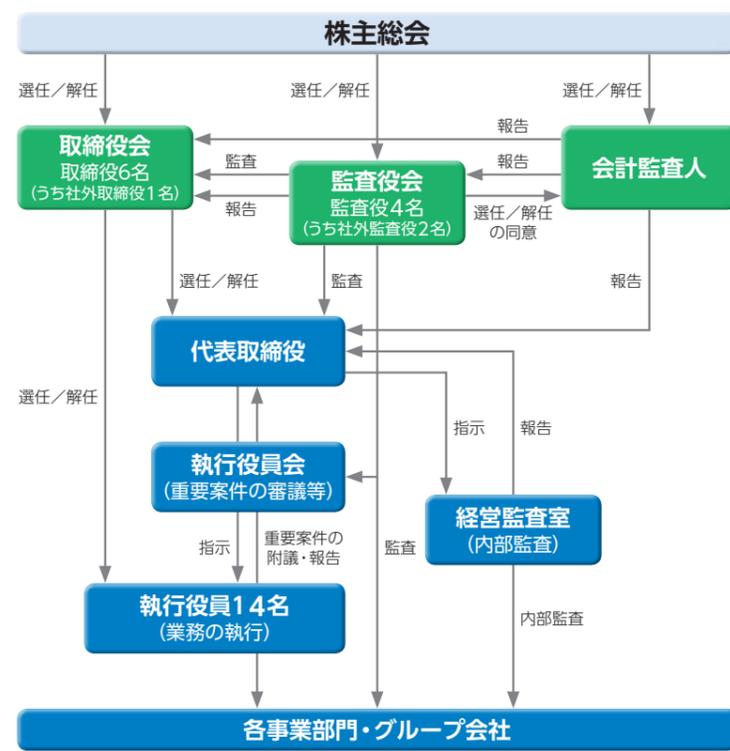
取締役会について

取締役会では経営の基本方針、法令・定款に定めのある事項、その他経営に関する重要事項について審議し、報告を受けて監督機能の強化に努めています。(尚、監査役も取締役会に出席し、必要に応じて発言をおこなっています。)

監査役会について

取締役の意思決定と職務執行を監査しています。また、社長直属の内部監査組織である「経営監査室」を設け、適法かつ適正・効率的な業務執行を確保するための体制を整えています。監査役・監査役会による会計監査・業務監査、会計監査人による会計監査及び経営監査室による内部監査をおこなっており、相互の連携を図りつつ、これら監査体制のもとで徹底した監査に努めています。

◆コーポレート・ガバナンス体制図



※2014年3月末日時点

内部統制システムについて

トプコングループでは、経営スピード向上を目的としてカンパニー制を導入しています。このカンパニー制の下で、権限と責任の委譲を促進し、経営効率を向上させるとともに、質の高い意思決定をおこない、経営の透明性を確保するための体制を確立すべく、2013年に意思決定に関する従来の社内規程を廃止し、新たに「グループガバナンス規程」を制定しました。

グループガバナンス規程は、グループ内の意思決定構造、意思決定プロセス、決裁基準および報告事項等を明確に定め、トプコングループ全体に適用されます。トプコングループは様々な国の企業で構成されており、グループ各社は所在国の法規制に従った事業運営をおこなっていますが、それに加え、グループ全体の方針である

グループガバナンス規程の遵守を求めることで、トプコングループ全体として、一貫したリスク管理をおこなうことが可能となります。

このグループガバナンス規程をトプコングループ内で周知徹底するため、グループ各社にも取締役会決議等により規程を採択させるとともに、担当部門が各拠点を訪問し、現地で対面式の教育をおこなうなどの取り組みを進めています。

2013年度は、米州、欧州、シンガポールなどの拠点を巡回訪問し、20社以上のグループ会社に教育をおこないました。2014年度以降も教育活動を継続し、また必要に応じて継続的な改善を加え、トプコングループに最適な内部統制システムを構築してまいります。

内部通報制度

トプコンでは2006年から内部通報制度を設け、リスク・コンプライアンス情報(法令や社内規程で禁止されている行為、社会通念に反する行為、もしくは、その疑いがある行為などの情報)の早期発見とその是正に努めています。これは、職制を通じたルートとは別に、電子メールや電話などにより直接担当部門(経営監査室)に連絡できる制度です。

2013年度の内部通報制度による相談はありませんでしたが、年間を通じ制度の周知徹底や相談しやすい企業風土・文化の醸成に努めております。また、国内グループ会社8社、海外グループ会社14社も夫々同制度を設けるなど、毎年制度の整備を拡大し、グループ一丸となってコンプライアンス経営を推進しています。

グループ内監査の実施

トプコン及び国内グループ会社に対し、実地による内部監査をおこなうと共に、国内外グループ36社を対象に、チェックリストによる「内部統制自己評価(CSA)」を継続的に実施しています。

CSA実施にあたり、2013年度は各社回答の精度向上に向け、質問内容の見直しや回答のエビデンスを徴すなどの取り組みを実施しました。このような活動を継続することにより、内部統制の整備状況の総合評価は、昨年度との比較で2ポイント改善され95%となりました。(95~

99%:23社、90~94%:10社、80~89%:3社/全36社、平均:95%)

また今年度から、要改善基準を従前より厳しい基準に改め、より高い内部統制レベルを追求し、改善の必要な関係会社に対しては改善計画の提出を求め、内部統制整備の加速を促しております。今後も、トプコングループのより良い統制環境構築のため、内部統制のモニタリングを継続してまいります。



コンプライアンス教育について

TOPCON WAYは「変化を先取りする先進性とコンプライアンス最優先の価値観により、すべてのステークホルダーから信頼される存在である」ことをトプコングループ共通の価値観として定めています。

トプコングループは、グローバルに事業活動を行う企業グループとして、コンプライアンス違反を許容しない方針を採り、グループ社員一人ひとりが遵守すべき具体的な行動指針を事業行動基準で定めています。事業行動基準では、法令遵守はもちろんのこと、その他あらゆる社会・倫理規範にも適合した対応をおこなうことを求めており、

その内容は多岐に亘ります。

トプコングループでは、グループ各社が事業行動基準を採択し、グループ全体でコンプライアンス意識の向上を図っています。2013年度は、グループのコンプライアンス担当部門が、米州、欧州、シンガポールなどの拠点において、事業行動基準全体の内容に加え、特に違反リスクの高い贈収賄および不正競争行為防止ならびにインサイダー取引防止について掘り下げた内容で教育をおこなうなど、グローバルにコンプライアンス活動を推進しました。

グローバル輸出管理体制の維持・強化について

海外売上高比率が7割を超え、グローバルに事業を展開しているトプコンが目標に掲げているのは「グローバル輸出管理体制の維持・強化」です。輸出管理体制が脆弱な場合、最悪のケースは輸出管理法違反等により輸出禁止等の制裁を受ける可能性もあり、企業としての存続基

盤を揺るがす事態を招きかねません。リーディングカンパニーとして「国際的な平和と安全の維持」という安全保障の面で責任が厳しく求められます。

「グローバル輸出管理体制の維持・強化」実現のため、具体的には以下の活動に注力しています。

1. 監査の実施

当社では輸出業務に関わる全ての部門を対象に内部監査を毎年実施しています。指摘した改善事項等は監査後1~3ヶ月掛けて被監査部門と対策内容を打ち合わせ、早い段階で不適合を潰します。次年度監査ではその対策内容が継続実施されているか確認すると共に、管理手続等に漏れやケアレスミス等無いかスルーで最初から確認します。また、国内外のグループ会社に対しては、年次計画を立てて監査を実施し、現地の輸出管理体制の維持・強化に努めています。

米国関連会社の法務部所属の米国法専門弁護士と合同で海外関連会社を実査する取り組みを2012年度から実施開始していますが、2013年度はオランダ、米国、UAE所在の関連会社に対して日米双方の輸出管理担当者が合同実査して体制強化に当たりました。2014年度からは本社直轄のグループ会社に加えて、日米合同監査を米国のポジショニングカンパ

ニー（POC）所轄の子会社にまで対象を拡げ、グローバル輸出管理体制の維持・強化に当たってまいります。



2. 輸出管理教育の実施

コンプライアンスマインド醸成のため、新入社員・中途採用者や実務担当者等に対して2013年度は21回の教育を実施し、合計155名が受講しました。教育テキストもトプコン独自に工夫を施し、理解しやすい教材作りを心掛けています。また、「海外赴任前教育」を必須とし、赴任先での輸出管理手続を統括・リードすることを強く認識させ「グローバル輸出管理体制強化」につなげています。



3. 輸出管理の専門家育成

輸出管理業務に従事する社員の知識レベルを向上させるため安全保障貿易情報センター（CISTEC）主催の「輸出管理認定試験」受験を推奨しています。2014年3月末時点で当社の「資格取得者」は64名を数えており、全社的なスキルアップに向けて積極的に取り組んでいます。

4. 輸出管理推進会議の定期開催

国際動向及びトプコングループの輸出管理状況等の情報共有を目的に、定期的に輸出管理推進会議を開催し、社内の意識レベル向上に努めています。

5. 特別管理地域

日本の外為法及び米国法で特に規制されているイラン・イラク・キューバ・シリア・（北）スーダン・北朝鮮の6カ国を「特別管理地域」としてプログラム上定め、当社として一番重い厳格な取引審査・管理手続を実施しています。

「『水も漏らさぬ体制』から『水も漏れない体制』へ」を目指して管理徹底を図っています。

情報セキュリティ・個人情報保護について

トプコンにおける情報セキュリティ確保策及び個人情報の保護に関する考えを、次の通りご紹介します。

トプコンでは、情報活用と情報保護のバランスを実現するために、情報セキュリティの技術的対策を実施しています。

1. 専門会社によるセキュリティ診断

国内グループネットワークとインターネットとを接続するシステムを対象に、毎年実施している情報セキュリティ専門会社によるセキュリティ診断を受診し、引続き適正なセキュリティレベルにあることを確認しました。

2. 不正Webサイトへのアクセス予防の強化

不正Webサイトのフィルタリングを実施していますが、世間一般ではウイルス感染の危険性があるサイトやフィッシングサイトなどへのアクセスリスクが増えています。このため、新たな機能を加えて、インターネットを通じた情報漏洩や情報詐取の未然防止対策を強化しました。

3. 端末認証による不正接続の防御

未登録の情報機器からの不正接続をブロックするため、社内ネットワークに接続するPCなどの情報機器を事前登録による認証制としました。

4. 災害対策の強化

災害対策として重要データの外部保管を従来から実施していますが、一部システムで復旧用サイトを遠隔地に構築し、災害時の業務継続性を向上させました。

個人情報の保護

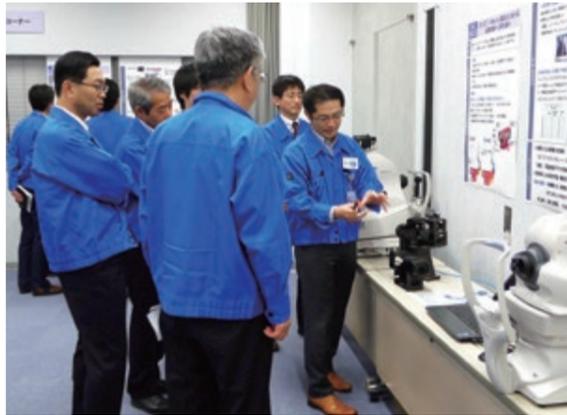
トプコンは、お客様の個人情報を尊重し、その保護に努めます。トプコンは、その事業活動において、以下の個人情報保護方針を実施しています。

基本方針

- 1 個人情報に関する法令およびその他の規範を遵守します。の提供や預託をさせて戴くことがあります。これらの取扱は、当社の事業内容や規模に合せて適切に行います。
- 2 当社がお客様から個人情報を収集する場合、特に個別にご説明しないとき、その個人情報は、当社、グループ会社、その他から、お客様への商品またはサービスのご提供やご紹介、お客様に役立つと思われるご案内をさせて戴く目的に使用します。また、情報の分析、加工、お客様へのフィードバック等の目的で、第三者への
- 3 不正アクセス、漏洩、紛失、破壊、改ざん等、個人情報に関するリスクに対して、合理的な安全対策を講じます。
- 4 個人情報保護の社内体制を整備し、さらに、これを引き続き見直し改善して行きます。

品質向上活動について

お客様に全てのトプコン製品を安心してお使いいただけるよう、継続的に品質改善活動をおこなっています。不良の再発防止はもとより、品質トラブルの原因を排除するため、製品開発の上流から下流までお客様の視点でのづくりをおこない、より信頼性ある製品開発を進めています。社員への品質教育をはじめ、11月の品質月間では、「品質改革事例展示会」を開催し、設計品質の向上からユーザーサポートの改善まで、品質向上のために取り組んだ改革事例を共有しました。この活動は、経営トップ及びグループ会社参加のもと行われ、グループ会社を含めた社員の品質意識を高めることができました。



ISO9001 認証取得について

トプコングループでは、国際的な品質マネジメントシステムの規格であるISO9001認証の取得・維持を通じて開発・製造から販売・アフターサービスに至るまで「顧客第一」「品質第一」を目指し、常に改善を進めています。

1994年の本社測量機器部門での認証取得を皮切りに、20年に渡りグループ内の主な拠点で認証取得を進め、グローバル企業としてより信頼される商品及びサービスを提供する努力を続けています。

◆ 取得年数や監査結果

認証取得年、 適合規格 (本社)	1994年(測量機事業)： ISO9001:1994年版			
	1995年(医療機器事業)： ISO9001:1994年版			
認証機関名	1998年(産業機器事業)： ISO9001:1994年版			
	2000年(全社統合)： ISO9001:1994年版			
	2002年(全社)： ISO9001:2000年版			
	2010年(全社)： ISO9001:2008年版			
審査結果 (過去3年)	年度	2011年	2012年	2013年
	審査の種類	更新審査	維持審査	維持審査
	不適合(Major)	0件	0件	0件
	不適合(Minor)	0件	0件	0件
	改善の機会	10件	7件	9件



ISO認証証紙 和・英

調達パートナーとの活動

トプコンは、調達活動に係る法令を遵守し、公平、公正な取引関係を前提に品質、価格、納期の確実性、技術水準、経営の安定性及び環境への配慮等を総合的に評価し、

サプライヤーを決定しています。調達パートナーと共に、今後懸念される地球温暖化や資源枯渇を考慮した、グリーン調達推進と紛争鉱物問題へ対応してまいります。

『グリーン調達ガイドライン』の策定

グリーン調達とは、環境保全活動を積極的に推進している調達パートナーから、環境負荷の小さい製品・部品・材料・原料等を調達することです。調達する製品含有化学物質の環境負荷・リスク低減を意識した環境保全活動を進めるためには、サプライチェーン全体に亘る活動が不可欠となります。本ガイドラインの策定により、調達パートナーとの協調により積極的な環境保全活動に取り組んでまいります。

なお、本ガイドラインには紛争鉱物*の使用制限に関する項目があります。トプコングループには、公開・報告の義務はありませんが、人道的見地やユーザーからの要請に応えるため、ガイドラインに盛り込むことと致しました。

*: 紛争地域諸国(コンゴ民主共和国及び近隣諸国)で産出されたことが明らかである3TG(スズ、タングステン、タンタル及び金)。武装集団の資金源となっており、米国に上場する企業の内、製品の製造等に3TGを使用する企業は、米証券取引委員会への報告義務があります。

サプライヤー向け経営方針説明会

調達パートナーであるサプライヤーとのパートナーシップを強化し共存共益を図るため、2013年10月29日に経営方針説明会を開催しました。112社130名(海外取引先、中国より3社7名を含む)のサプライヤーに出席し

ただき、社長・各カンパニー長による経営方針の説明と、統合調達推進グループ統括による調達方針の説明をおこない、トプコングループの経営方針・調達方針への理解を深めていただきました。



化学物質管理を重視した取引先管理

EU諸国のRoHS指令をはじめとした特定化学物質規制に対応するため、製品に使用される含有化学物質の管理は必須となっています。トプコンではサプライヤーの協力のもと、調達品の化学物質の含有調査をおこない、特定

化学法規制対応に努めてきました。今後は、化学物質管理を重視した取引先管理にフォーカスし、化学物質調査データが明確な調達品を採用していきます。



人事制度等

2014年4月よりトプコンでは人事制度を刷新し、社員の力を最大限に発揮できるスピーディで柔軟な人財活用が可能な人事制度を構築しました。その人事制度では「人財の成長」＝「事業の成長」と捉え、求める人財像を

Topconian(トプコン人)と定義しました。また、人事において大切にすることを「人事理念」として定め、今後はより一層、社員の成長支援に注力していきます。

◆求める人財像



人事理念

トプコンは、経営ビジョンの実現に向け**Topconian(トプコン人)**を育て、大切にします。

- Topconian(トプコン人)とは
1. 利益を創出する高度な専門性を持つ人財
 2. 国境や文化の違いを超えて共通の価値観を持って行動する人財
 3. チームワークを大切にする人財

そのために、人財に働く場と自ら学び成長する機会を平等・公平に提供します。
また、基本的人権を尊重し、社員に最適な業務遂行環境を提供します。

労働時間・休暇制度・業務上災害について

◆社員の総労働時間と時間外勤務時間(トプコン)

	2011年度	2012年度	2013年度
総労働時間(一人当たり)	1,996時間	2,022時間	2,073時間
時間外勤務時間(一人当たり)	210時間	215時間	276時間

◆各種制度の利用状況(トプコン)

制度の名称	休業期限	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
育児休業	子が満2歳に到達する月末まで	15人	13人	6人	8人	12人
短時間勤務	子が小学校3年を修了するまで	12人	10人	10人	10人	14人
介護休業	1年	1人	0人	0人	0人	0人
再雇用制度	定年者の再雇用	18人	14人	10人	10人	9人

◆業務上災害

2013年度はトプコンにおいて、業務上災害が2件発生しました。●作業中に足を強打し骨折(休業)、通路を移動中に転倒(不休業)

	トプコン2013年	製造業(100人以上)平均	全産業(100人以上)平均
連続無災害記録	死亡災害、休業1日以上 の災害発生が無い期間 累計67.0万時間	—	—
労働災害の強度率 (休業1日以上)	災害の重さ	0.05	0.10
労働災害の度数率	災害発生の頻度	1.20	0.94
千人率	労働者1,000人あたり 1年間に発生する死傷者数	2.48	2.80

(参考)出典等
連続無災害記録 労働災害(休業)発生翌日より2014年3月末日迄における累計時間数。
強度率、度数率 厚生労働省「平成25年労働災害動向調査」
千人率 厚生労働省「職場のあんぜんサイト」業種別千人率(平成23年~24年) http://anzeninfo.mhlw.go.jp/information/h08_24_sen01.html

労組情報

名称：トプコン労働組合
代表者：執行委員長 田澤 明智
結成：1946年(昭和21年)1月29日
形態：独立企業内労働組合
組合員情報：(2014年4月1日現在)
1) 組合員数/488名(男性401名・女性87名)
2) 平均年齢/38.4歳(男性38.5歳・女性38.0歳)
3) 平均勤続年数/15.4年(男性15.5年・女性15.1年)
組合員資格：原則、主任・エキスパート以下の正社員
加入形態：ユニオンショップ
(正社員登用と同時に一律加入)
上部団体：非加盟

トプコン関連労協について

トプコン製造関係会社に働く労働組合員として労働組合の交流を深め、関連労組全体の労働条件等を改善していくことを主旨として結成されました。雇用の維持をはじめ生活の安定と実質生活水準の維持・向上を目指して日々活動しています。

名称：トプコン関連労働組合協議会
代表者：議長 田澤 明智
(トプコン労組執行委員長)
結成：1981年(昭和56年)3月8日
加盟労組：トプコン労働組合
トプコン山形労働組合
オプトネクス労働組合

労組と会社のコミュニケーション

【労使懇談会】：毎月1回定例開催。会社から経営状況やトピックス等についての報告を受け、それに対し労組から意見を述べ、相互の情報共有を図る。
【労使協議会】：毎月の定例及び労使どちらかの申し入れにより臨時に開催。より具体的な意見交換や労使双方からの提案議題等について協議する。

2013年度の主な労使協議案件

- 年間一時金水準 ●年間休日(カレンダー)設定
- 各人退職金計算基礎額加算水準見直し
- 業績連動一時金制度(指標・テーブル及び計算式)改定
- 人財育成 ●子会社等への転籍
- 消費税率引き上げに伴う各種対応

- トプコン山形労働組合(2014年4月1日現在)
 - 1) 結成/1947年(昭和22年)
 - 2) 代表者/執行委員長 鈴木一也
 - 3) 組合員数/204名(男性143名・女性61名)
 - 4) 平均年齢/39.4歳(男性39.7歳・女性38.6歳)
 - 5) 平均勤続年数/19.0年(男性19.0年・女性18.0年)
- オプトネクス労働組合(2014年4月1日現在)
 - 1) 結成/2003年(平成15年)10月
 - 2) 代表者/執行委員長 佐久間 学
 - 3) 組合員数/166名(男性83名・女性83名)
 - 4) 平均年齢/44.1歳(男性41.2歳・女性46.9歳)
 - 5) 平均勤続年数/24.4年(男性21.6年・女性27.1年)



国連グローバル・コンパクトに関する活動

国連グローバル・コンパクト(以下GC)は、1999年1月、スイスのダボスで開催された、世界経済フォーラムの席上で、当時国連事務総長に就任されていたコフィー・アナン氏により提唱され、翌2000年7月に正式発足しました。GCは参加する世界各国の企業や団体に対し、「人権」「労働基準」「環境」「腐敗防止」の4分野において、世界的に確立された10原則を支持し、実践する事を求めています。

トプコングループは2007年10月に参加して以来、TOPCON WAYやCSR基本方針、Topconianをはじめ

めとした、グループ経営の根幹を成す各種方針や制度等に、10原則の精神を採り入れています。

具体的にGCの精神を実践するための様々な活動もおこない、意識向上に取り組んでいます。

- コンプライアンス教育の一環として、贈収賄防止に関する教育をグループ各社で実施
- 人権に関する項目を社員手帳に掲載し、説明
- 雇用契約書に人権に関する項目を掲載し、同意の上で契約締結 など

GCの10原則

● 人 権

- 原則1** 国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、
- 原則2** 自らが人権侵害に加担しないように確保すべきである。

● 労働基準

- 原則3** 組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、
- 原則4** あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、
- 原則5** 児童労働の実効的な廃止を支持し、
- 原則6** 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。

● 環 境

- 原則7** 環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、
- 原則8** 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、
- 原則9** 環境に優しい技術の開発と普及を推奨すべきである。

● 腐敗防止

- 原則10** 強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止に取り組むべきである。



<http://www.ungcjin.org/> (グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク)

トプコングループ環境ビジョン2020

グローバル市場に商品を提供する企業グループとして、社会的責任を全うする為の重要な課題である環境問題に対するあるべき姿として、以下の通り「トプコングループ

環境ビジョン2020」を掲げ、グループの総力を挙げ、取り組んでいます。

1 地球温暖化防止

トプコングループでは、地球温暖化を最重要の環境問題と捉え、日本国内の拠点で排出するCO₂を1990年度に比べ、2020年度末までに25%削減することを目指します。海外の拠点はこれに準じてCO₂排出量の削減に努めます。

2 商品を通じた貢献

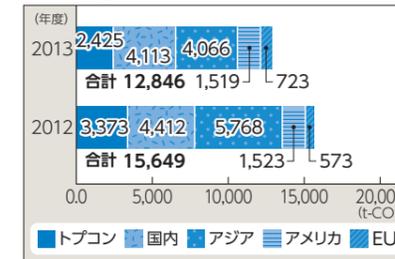
商品そのもののライフサイクルを通じた環境負荷をより一層低減するため、省エネ化、省資源化を推進します。また、お客様とともに地球温暖化防止、資源有効利用、生物多様性保全に貢献できる商品、技術、サービスの提供に努めます。更に、ものづくりにおいては、開発・製造・販売を含めた企業活動から発生する廃棄物は基本的にリサイクルし、有効利用に努めます。

トプコングループの環境負荷量報告(2013年)

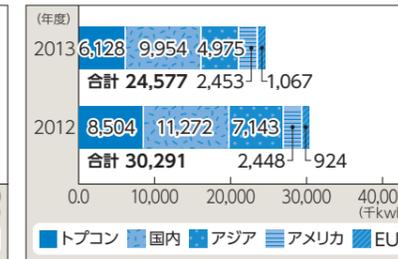
日本国内や中国には加工工場、米国には組み立て工場を持ち、電気や化石燃料の消費によるCO₂の排出や製造工程等から出る廃棄物など、環境負荷が発生しています。また、光学機器製造業の特徴として、製造工程や組み立て工程での洗浄作業等により、多量の有機溶剤を使用し

ています。
こちらでは、比較的環境負荷の少ない販売会社なども合わせ、トプコングループの事業活動に伴う排出量や使用量等の環境負荷を報告します。

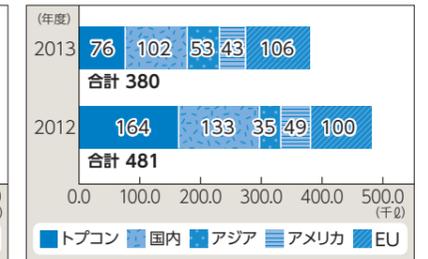
◆ CO₂排出量



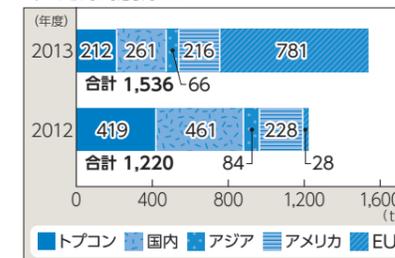
◆ 電気使用量



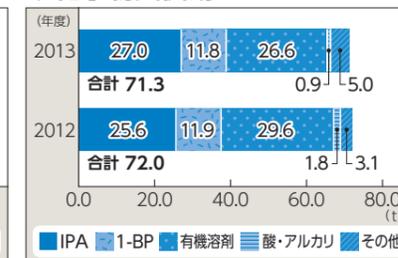
◆ 化石燃料使用量(原油換算)



◆ 廃棄物排出量



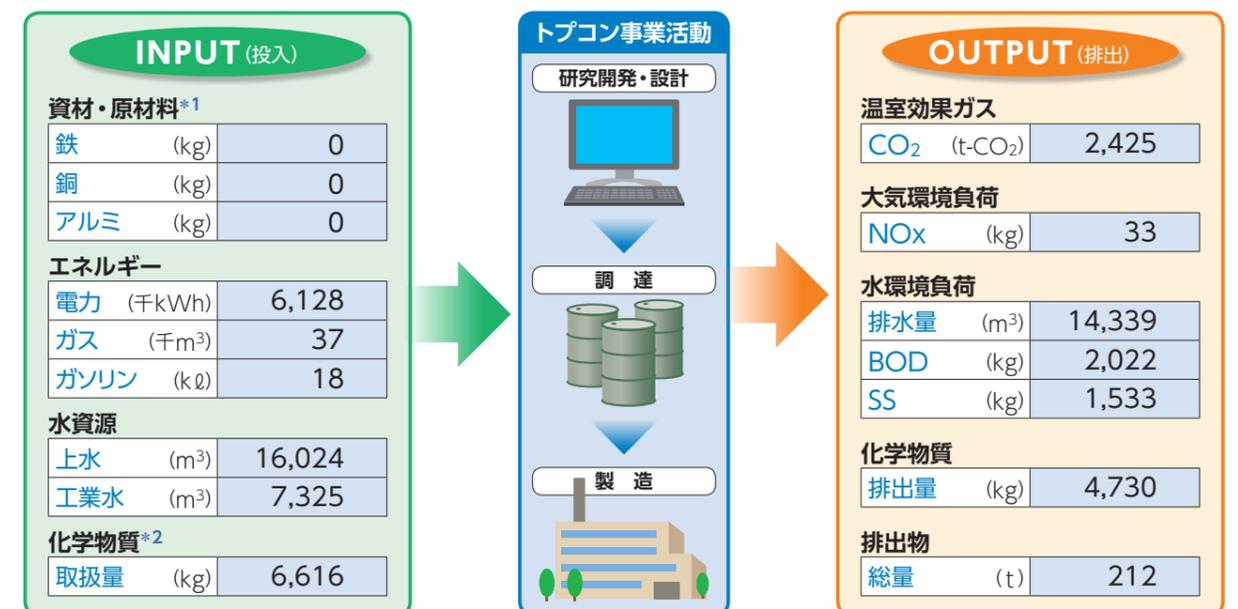
◆ 化学物質使用量



※集計に際して、データ収集の範囲、換算方法の見直しなどをおこなっています。
例：トプコン及び国内のCO₂排出量は最新の電気事業者別調整後排出係数で再計算しています。
環境負荷の増減については、グループ会社環境監査によって詳細を確認し、必要であれば改善の指導をおこないます。

トプコンの環境負荷報告(2013年)

トプコンの事業活動に伴う、資源・エネルギーの投入量や温室効果ガスの排出量等を報告します。



※ OUTPUTの補足 ● 排熱：大気放出 ● 排水：全て処理後に下水へ ● 廃棄物：リサイクル業者に引渡し (リサイクル不能物品はサーマルリサイクルへ) ● ゼロエミッション継続中
*1：資材・原材料の投入は社内加工品が対象 *2：化学物質は対象を全物質に拡大、排出は主に大気



環境負荷低減に関する取り組み

中国における省エネルギー活動

中国のグループ会社Topcon Optical (Dongguan) Technology Ltd.では、会社を挙げて省エネルギー活動に取り組んでいます。2013年度には空調機器の省エネルギー化を更に推進し、中央制御システムの導入や省エネ空調機への代替等により、年間消費電力を69.79万kWh削減しました。また、社員の環境保護意識高場の



為のセミナーを開催しました。これら活動環境問題への取り組みや省エネルギー活動、地域社会への奉仕など長年に渡る積極的な環境活動への取り組みを評価され、香港労働総会より「珠江デルタ地域環境保護グリーン賞」を受賞しました。



欧州における省エネルギー活動

欧州のグループ会社Topcon Europe B.V.(以下TE)には多数の社用車があり、内41%はLEV(低環境負荷車)で、この内4台は家庭の電気プラグから充電できる、プラグインハイブリッドです。更にTEは2台の電気自動車向け充電設備を、お客様向け・社員向けの駐車場に設置し、CO₂排出量削減に貢献しています。



トプコングループ「ISO14001」審査状況

製造系の会社を中心に、グループ5社(日本4社、中国1社)が認証を取得し、毎年認証機関による審査を受け、適切に運用しております。13年度の審査では、不適合カテゴリA(重大)は無く、引き

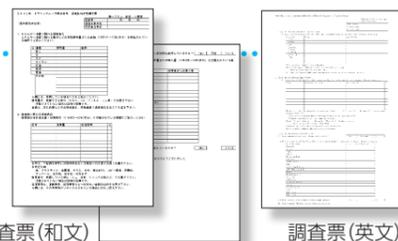
続き認証の継続が認められました。カテゴリB(軽微)、改善の余地(不適合ではない)でアドバイスいただいた事項については適切に対応し、改善を実施しております。

	認証取得日	認証機関	直近審査日	種類	不適合A	不適合B	改善の余地	良い取り組み
トプコン/トプコンテクノハウス	1997. 9.29	JACO	2013/ 8/22~23	サーベイランス	0	0	2	7
トプコン山形	2000. 3.20	TUV	2013/ 7/11~12	サーベイランス	0	1	1	—
Topcon Optical(Dongguan) Technology Ltd.(中国)	2001. 5.17	SGS	2013/ 4/15~16	サーベイランス	0	0	2	—
オプトネクサス本社工場	2001.12.21	JQA	2013/11/ 6~ 8	更新	0	0	13	4

※トプコンテクノハウスは認証範囲の拡大という形で認証を取得。

グループ会社環境負荷実態調査

2007年よりグループ・グローバルで環境負荷の把握をおこない、負荷量増加などの改善事項のある会社へは指導をおこなっています。2013年の調査結果はP20をご覧ください。



グループ会社環境監査

製造系のグループ会社については、上記環境負荷実態調査の他、環境保全活動向上を主眼とした書類監査(環境経営監査・遵法監査)をおこなっています。

2013年は6社を対象に実施し、問題無い管理レベルであると確認しました。



特定非営利活動法人
循環型社会研究会

代表 山口 民雄

本報告書の作成過程で報告書の担当者の方との意見交換や、新装のショールームを案内いただきました。意見交換では報告書に対する率直なコメントを申し上げましたが、本報告書に可能な限り対応されていることを高く評価させていただきます。報告書の読者にとって、説得力に富む報告書の条件の一つに「編集方針がトップメッセージや特集、各項目に反映されていること」があげられます。本報告書はその好例であり、さらに、国境や会社の枠を超えて共有する最上の価値観である「TOPCON WAY」に基づいた現場での具体的な取り組みが報告されています。本報告書では、新たなスローガン「Creativity & Growth「創造と成長」」のもと、大幅な増収・増益の実現や新たな価値創造による人類社会への貢献など多様な側面でのグローバル化の進展が伝わってきます。こうした「グローバルトップ」を目指す過程では、進展にふさわしい取り組みの有無が問われます。本報告書では、そうした問いに対する対応として、人材像「Topconian(トプコン人)」の養成、「グループガバナンス規程」の制定、コンプライアンス教育の強化などが示されています。人材の養成にあたって、トップメッセージでは「社員の基本的人権を尊重し、最適な業務遂行環境を提供する事は、事業の発展に欠かせないことと捉えております」と明言されています。これは、ILOのフィラデルフィア宣言で謳われた「労働は商品ではない」という根本原則を想起させます。わが国は先進国の中で特異な労働慣行にあり、過労死やメンタルヘルス疾患などが増大の一途にある現在、非常に重要な視点と考えます。また、さらなるグローバル化を進展させる貴社にとって、非正規を含む従業員の権利保護やディーセント・ワーク(公正で好ましい条件での仕事)の実現に向けて一層の努力を期待します。この間、国内での総労働時間、時間外勤務時間が

循環型社会研究会：

次世代に継承すべき自然生態系と調和した社会の在り方を地球的視点から考察し、地域における市民、事業者、行政の循環型社会形成に向けた取り組みの研究、支援、実践を行うことを目的とする市民団体。研究会内のCSRワークショップで、CSRのあるべき姿を研究し、提言している。

URL: <http://junkanken.com/>

増えていることや海外での労働実態などが報告されていませんので、次年度に向け取り組みを強化していただきたいと思います。「グループガバナンス規程」の制定も大きな前進です。特筆に値するのは、単に文書規程の制定ではなく、取締役会決議等により規程を採択、拠点を訪問し対面式の教育を行ったことです。このことによって、各拠点に本規程が着実に根を下ろすことが期待できます。今後は、継続的に評価調査を実施し、その結果を開示してください。特集においては、昨年に引き続きCSV(Creating Shared Value)活動が紹介されました。現在の事業活動においては、企業と社会での共通の価値を創造するCSV活動は社会からの信頼を得るために非常に重要な取り組みであり、特集として記載することは必要と考えます。本特集では、寄付や機器の寄贈、人材養成機会の提供など貴社の様々な経営資源をコミュニティに提供し、コミュニティの発展に寄与されていることは想像に難くありません。ただ、さらに記載を深めることによって、「想像」から「確信」に変わると思います。具体的には、寄付、寄贈という企業視点に加えて、そうした行為が対象者の行動にどのような変化を及ぼしたのか、さらに当該コミュニティにどのような波及効果が見られたかというステークホルダーの視点の記述です。最後に昨年も申し上げましたが、今後の企業報告の方針・戦略の確立です。報告書のガイドラインとしてはGRI4.0や統合報告フレームワークなどが昨年公表されました。「グローバルトップ」企業では、グローバルな国際規範(ソフトロー)に準拠するとともに、こうしたガイドラインに対応することも重要です。本報告書は、22頁と非常に簡潔に整理されており、評価できますが、この簡潔性を一方で保持するとともに、他方で社会の要請に応える企業情報の開示を模索し、方針・戦略をぜひ、確立してください。

第三者意見を受けて

人財の成長=事業の成長と捉え、グローバルトップを目指す当社にとって、求める人材像であるTopconianの養成が急務となっております。国境や文化の違いに囚われず、基本的人権の尊重と最適な業務遂行環境の提供をもって事業を進展させ、新たな価値創造により人類社会へ貢献して参ります。

今後はグローバルガバナンスやCSVの更なる進展に注力し、適切な情報開示をおこなうことで、皆様のご期待にお応えする所存です。

TOPCON CSR Committee
委員長 岩崎 眞



文字サイズ:

小 標準 大

印刷用表示

検索 サイト内検索

Go

>> Home >> Site Map >> English Global Gateway お問い合わせ

- ホーム
- 会社情報
- 製品情報
- 投資家情報 (IR)
- 社会・環境活動
- 採用情報



ポジショニング

ポジショニング・カンパニー／スマートインフラ・カンパニー

測量、土木・建設分野向け測量機器、GPS、マシンコントロール機器、移動体制御分野および精密農業分野



アイケア

アイケア・カンパニー

検査、診察、治療等の眼科医療向け機器および視力測定、レンズ加工装置の眼鏡店向け機器



簡単撮影で
健診などに
最適 無散瞳
眼底カメラ



東日本大震災に対する
当社の対応について

調達

研究開発

トプコン案内図

RSS 配信について

COOLBIZ WARMBIZ

エコ・ビジネスカジュアル実施中
当社へは軽装 (ノーネクタイ) で
お越しください

ニュースリリース [>> 一覧を見る](#)

- 2014年07月07日 **スマートインフラ**
[BIMやCIMIに向け様々な測定ニーズに対応する3Dレーザースキャナー「GLS-2000」を発売!](#)
- 2014年06月25日 **アイケア**
[眼科用レーザー光凝固装置 PASCAL 黄色と赤色の2色レーザー搭載モデル Synthesis TwinStarを追加ラインナップ](#)
- 2014年06月20日 **スマートインフラ**
[GNSSの使い勝手でトータルステーション同等の高精度! GNSSレベル「Z-Plus」を発売](#)
- 2014年04月01日 **スマートインフラ**
[農機のオートステアリングにも対応! 農業の効率化を推進するタッチスクリーン ガイダンスコンソール「X14」の国内販売を開始](#)
- 2014年03月03日 **アイケア**
[熟練不要の無散瞳眼底カメラ TRC-NW400 新発売](#)

What's New (更新情報) [>> 一覧を見る](#)

- 2014年07月17日 **スマートインフラ**
[【SOKKIA活用事例】GSX2の活用事例を追加しました。](#)
- 2014年07月07日 **スマートインフラ**
[SOKKIA MUSEUMをオープンいたしました。](#)
- 2014年07月07日 **スマートインフラ**
[3D Laser Scanner GLS-2000の製品情報を追加しました。](#)
- 2014年06月30日 **投資家情報**
[第121期定時株主総会議決権行使結果\(臨時報告書\)を掲載しました。](#)
- 2014年06月27日 **投資家情報**
[第121期有価証券報告書を掲載しました。](#)

平成27年3月期第1四半期決算は7月31日(木)15:00頃発表予定です。内容につきましては当日夕刻当ホームページに掲載いたします。

トピックス [>> 一覧を見る](#)

- 2014年06月19日
[「ゴメス・コンサルティング」IRサイト総合ランキングで優秀企業に選ばれました。](#)
- 2014年06月02日
[サーバーメンテナンスに伴うTSshieldサービス停止のお知らせ](#)
- 2014年01月07日
[映画「永遠の0」への制作協力](#)
- 2013年12月05日
[サーバーメンテナンスに伴うTSshieldサービス停止のお知らせ](#)
- 2013年12月05日
[大和インベスター・リレーションズの「2013年インターネットIR・優良賞」を受賞しました。](#)

イベント・展示会情報 [>> イベント詳細](#)

- 2014年05月26日 - 2014年09月30日 **ポジショニングスマートインフラ**
[3D-MC/3D-MG無料試乗会\(白河トレーニングセンタ\)](#)
- 2014年07月14日 - 2014年07月18日 **ポジショニングスマートインフラ**
[2014 Esri International User Conference \(アメリカ・サンディエゴ\)](#)
- 2014年07月16日 - 2014年07月18日 **アイケア**
[国際モダンホスピタルショー2014\(東京ビッグサイト\)](#)
- 2014年07月16日 - 2014年07月20日 **ポジショニングスマートインフラ**
[INTERFORST \(ドイツ・ミュンヘン\)](#)
- 2014年07月20日 - 2014年07月23日 **ポジショニングスマートインフラ**
[12th International Conference on Precision Agriculture \(アメリカ・サクラメント\)](#)

TOPCON WAY

TOPCON WAY

トプコンは、「光」のもつ可能性を探究し、未来に向けて新しい価値を創造し、豊かな人類社会の形成に貢献します。

トプコンは、変化を先取りする先進性とコンプライアンス最優先の価値観により、すべてのステークホルダーから信頼される存在であり続けます。

トプコンは、開発・設計、製造、販売、サービス、すべての段階で品質向上に最善を尽くし、信頼性の高い商品を提供し、お客様の事業を発展させます。

トプコンは、代理店等の事業パートナーとの相互信頼とパートナーシップを尊重し、情報の共有と密接な連携により、共に事業を発展させます。

トプコンは、社員とのコミュニケーションを大切にし、多様な個性や価値観、創造と革新の精神を尊重し、その能力を最大限発揮させます。

トプコンは、国際・地域社会の一員として、人権・環境・労働・腐敗防止のグローバル基準を尊重し、持続可能な市場の構築に寄与します。

トプコンは、株主に対し、適時・適切な情報開示を行い、信頼関係の形成と企業価値向上に努めます。

Copyright © 1997-2013 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.

社会・環境活動	社会・環境活動(CSR)
---------	--------------

社会・環境活動(CSR)



トプコンは、「光」のもつ可能性を探求し、未来に向けて新しい価値を創造し、豊かな人類社会の形成に貢献します。

- ・ [トプコン事業行動基準](#)
- ・ [CSRに関する主な方針](#)

■ CSR報告書



- ・ 全ページ版

[PDFダウンロード](#) A3版[3,853KB]

[PDFダウンロード](#) A4版[3,924KB]

- ・ ステークホルダーの皆様とともに
- ・ 会社概要
- ・ 財務情報

[PDFダウンロード](#) [993KB]

- ・ トップメッセージ

CSRマインド

- ・ CSRマインド
- ・ CSRの取り組みと目標

[PDFダウンロード](#) [1,448KB]

特集

- ・ CSV (Creating Share Value)をはじめとする社会

[PDFダウンロード](#) [952KB]

CSRマネジメント報告

- ・ トプコンのガバナンスについて
- ・ 内部統制システムについて
- ・ コンプライアンス教育について
- ・ グローバル輸出管理体制の維持・強化について
- ・ 情報セキュリティ・個人情報保護について
- ・ 品質向上活動について
- ・ 調達パートナーとの活動

[PDFダウンロード](#) [914KB]

CSRアクティビティ報告

- ・ 人事制度等
- ・ 労働時間・休暇制度・業務上災害について

[PDFダウンロード](#) [515KB]

- ・ 国連グローバル・コンパクトに関する活動
- ・ トプコングループ環境ビジョン2020
- ・ トプコングループの環境負荷量報告
- ・ トプコンの環境負荷報告
- ・ 環境負荷低減に関する取り組み

[PDFダウンロード](#) [1,323KB]

[PDF](#)
[第三者意見、第三者意見を受けて](#) [546KB]

[PDF](#)
[アンケート](#) [80KB]

※トプコングループCSR報告書2012より、環境配慮の為PDF版のみのご提供となります。何卒ご了承願います。

株式会社トプコン
TOPCON CSR Committee(事務局 総務・人事部 CSR担当)
TEL:03-3558-2893

■ バックナンバー

- ・ [トプコングループCSR報告書2013](#) [3,010KB]
- ・ [トプコングループCSR報告書2012](#) [2,947KB]
- ・ [トプコングループCSR報告書2011](#) [3,189KB]
- ・ [トプコングループCSR報告書2010](#) [6,056KB]
- ・ [トプコングループCSR報告書2009](#) [2,352KB]
- ・ [トプコングループCSR報告書2008](#) [5,120KB]
- ・ [トプコンCSR報告書2007](#) [2,396KB]
- ・ [トプコンCSR報告書2006](#) [2,299KB]
- ・ [トプコングループ環境報告書2005](#) [550KB]
- ・ [トプコングループ環境報告書2004](#) [678KB]
- ・ [トプコングループ環境報告書2003](#) [1,290KB]
- ・ [トプコン環境報告書2002](#) [1,014KB]
- ・ [トプコン環境報告書2001](#) [615KB]

■ 国連「グローバル・コンパクト」

[グローバル・コンパクトへの参加について](#)

トプコングループは2007年10月より、国連グローバル・コンパクトに参加しております。



PDFファイルをご覧いただくにはAdobe Acrobat Readerが必要です。
[Acrobat Reader](#)はアドビシステムズ社より無償配布されています。

[△pagetop](#)



文字サイズ:

小 標準 大

印刷用表示

検索 サイト内検索

Go

>> Home >> Site Map >> English Global Gateway お問い合わせ

- ホーム
- 会社情報
- 製品情報
- 投資家情報 (IR)
- 社会・環境活動
- 採用情報

ホーム > 社会・環境活動(CSR) > 国連「グローバル・コンパクト」

CSR English

社会・環境活動 社会・環境活動(CSR)

国連「グローバル・コンパクト」

◆グローバル・コンパクトとは

グローバル・コンパクト(以下GC)は、1999年1月、スイスのダボスで開かれた世界経済フォーラムの席上で、コフィー・アナン国連事務総長が提唱し、翌2000年7月にニューヨークの国連本部で正式に発足しました。

GCは参加する世界各国の企業に対して、人権、労働、環境等の4分野で世界的に確立された10原則を支持し、実践することを求めています。

◆GCの10原則

GCの人権、労働、環境及び腐敗防止に関する原則は以下の3つの世界的に確立された合意に基づくものです。

- ・ 世界人権宣言
- ・ 国際労働機関(ILO)の就業の基本原則と権利に関する宣言
- ・ 環境と開発に関するリオ宣言

GCの10原則

<p>●人権</p> <p>原則1 国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、</p> <p>原則2 自らが人権侵害に加担しないように確保すべきである。</p> <p>●労働基準</p> <p>原則3 組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、</p> <p>原則4 あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、</p> <p>原則5 児童労働の実効的な廃止を支持し、</p> <p>原則6 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。</p>	<p>●環境</p> <p>原則7 環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、</p> <p>原則8 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、</p> <p>原則9 環境に優しい技術の開発と普及を推奨すべきである。</p> <p>●腐敗防止</p> <p>原則10 強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止に取り組むべきである。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



THE GLOBAL COMPACT
Network Japan
WE SUPPORT

◆グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク

<http://www.ungcn.org/>

CSRのTOPへ戻る

pagetop

トプコン事業行動基準

トプコン事業行動基準について

第1章 企業行動についての基準

1. 1 社会とのかかわり
1. 2 環境保全
1. 3 総合品質保証
1. 4 お客様の尊重
1. 5 営業活動
1. 6 調達活動
1. 7 輸出管理
1. 8 競争法遵守
1. 9 不適正な支出の禁止
1. 10 政治寄付
1. 11 政府との契約
1. 12 適正な会計
1. 13 広報
1. 14 広告

第2章 会社と社員等の関係についての行動基準

2. 1 人間の尊重
2. 2 職場環境
2. 3 社員等の外部活動
2. 4 情報
2. 5 技能・技術者倫理の遵守
2. 6 知的財産権の尊重
2. 7 海外安全

制定 1990年11月

[CSRのTOPへ戻る](#) ↩

Copyright © 1997-2013 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.

トプコン事業行動基準について

1. 目的

トプコン事業行動基準(以下「本基準」という。)は、「TOPCON WAY」に基づき、トプコンが事業活動を展開していくにあたって、法令を遵守し、経済・社会倫理に従って行動するという観点から、トプコン及びその社員等の行動基準を定めたものである。

2. 適用範囲

- (1) 本基準は、トプコン各会社が、取締役会等で承認することにより、各会社の社員等に適用する。
- (2) トプコン各会社は、国や地域の法令、商慣行、労働慣行、価値観等や自社の業態、取引形態、商品・サービスの内容等に応じて、本基準の内容の一部を変更することができるが、本基準に反する内容を定めることはできない。

3. 定義

本基準における各用語の定義は、以下に定めるところによる。

- (1) 「トプコン」とは、株式会社トプコン及びその「子会社」をいう。
- (2) 「子会社」とは、株式会社トプコンが実質的に議決権総数の過半数或いは実質的な支配力を有する法人をいう。
- (3) 「社員等」とは、「トプコン」の役員及び社員をいう。
- (4) 「社員」とは、「トプコン」の社員(顧問・嘱託社員等を含む。)をいう。
- (5) 「商品」とは、トプコンの製造であるか否かを問わず、トプコンの責任において販売される一切の製品類及びシステム類をいう。

4. 推進体制

4.1 実施統括責任者

トプコン各会社は、本基準の実施について責任を負う「実施統括責任者」を任命する。株式会社トプコンの実実施統括責任者は、リスク・コンプライアンス関係担当役員(Chief Risk-Compliance Management Officer)、子会社の実施統括責任者は、社長とする。

4.2 実施責任者

実施統括責任者は、本基準の各項目を推進するため、「実施責任者」を指名する。株式会社トプコンの実実施責任者は、第一段部長、営業所長、海外事務所長とし、それぞれの部門における本基準の実施についての責任を負うとともに所管する子会社に対する指導の責任を負う。

4.3 事務局

本基準の管理及びトプコン各会社の本基準の採択・実施の推進、支援のための事務局は、株式会社トプコン法務部とする。

5. 内部通報制度、通報者保護

- (1) トプコンは、リスク・コンプライアンス情報(本基準で禁止されている行為が行われている、又はその疑いがあるという情報)に接した社員等が、その情報を実施統括責任者、リスク・コンプライアンス担当部門等に直接提供することができる内部通報制度を構築し、適切に運用する。
- (2) 社員等は、リスク・コンプライアンス情報に接した場合、直ちに上長或いは上位の管理者に報告、又は前号の内部通報制度に則り情報提供を行う。
- (3) 内部通報制度等を通じてリスク・コンプライアンス情報を受け取った、実施統括責任者、実施責任者、リスク・コンプライアンス担当部門、上長又は上位の管理者は迅速、適切に対応する。
- (4) 誠実かつ正当な目的でリスク・コンプライアンス情報を提供した社員等に対し、情報提供を行ったことを理由に、不利益な取扱いを行わない。

6. 本基準に違反した場合の措置

本基準が禁止している行為を行った場合、トプコン各会社の就業規則の定めるところにより、解雇を含む懲戒処分の対象となる。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#) ↩

Copyright © 1997-2013 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.

第1章 企業行動についての基準

1.1 社会とのかかわり

1.1.1 基本方針

- 1.1.1.1 トプコンは、地域社会との連帯と協調を図り、その一員としての責任を果たす。
- 1.1.1.2 トプコンは、社員等の社会奉仕活動(ボランティア活動)を支援する。

1.1.2 具体的行動基準

- (1) トプコンの経営姿勢を地域社会に正しく伝える。
- (2) 地域社会の風土・文化・慣習を尊重し、融和を図る。
- (3) 地域社会との接触機会の拡大を図り、トプコンの事業活動に対する地域社会からの理解の促進と良好な関係の維持に努める。
- (4) 地域社会の発展・向上に貢献するため、社会性・公共性・必要性等を勘案し、タイムリーかつ適正な寄付を行う。
- (5) 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは断固として対決し、一切の関係をもたない。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#) 

第1章 企業行動についての基準

1.2 環境保全

1.2.1 基本方針

トプコンは、「『かけがえのない地球環境』を、健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、現存する人間の基本的責務」との認識にたつて、環境保全を技術的、経済的に可能な範囲で推進するべく、以下の方針に従う。

- (1) 積極的な環境施策の展開により、継続的な改善・向上を図るとともに、環境保全に関する法令の遵守はもとより、より厳しい自主基準での管理に努める。
- (2) 事業活動、商品及びサービスが環境に与える影響を評価し、その改善に向けて環境目的及び目標を設定して、環境負荷の低減、資源の有効活用、環境技術・製品の開発及び提供に努める。
- (3) 環境保全に対する組織を整備し、規制化学物質の削減、施設の改善、廃棄物削減・再資源化、省エネルギー、環境調和商品の開発等に積極的に取り組む。

1.2.2 具体的行動基準

- (1) 環境保全に関する教育・広報活動を積極的に行い、社員等の環境保全に対する意識の高揚を図る。
- (2) 省資源化・減量化・再資源化等、地球環境への負荷を低減するため、新規立地・再配置、設備投資、設備設計・工事、商品企画・開発段階から製造・流通・廃棄までの各段階において事前評価を行う。
- (3) 法令等により規制されている有害物質は、極力使用しないこととする。当該物質を使用する場合は、最善の技術をもって排出を最小にするよう努力する。
- (4) 地球環境の負荷低減化のための新技術及び商品開発に努めるとともに、これに関する情報を収集する。
- (5) 定期的に環境測定及び点検を実施し、その記録を規定に基づき保存する。
- (6) 記録・報告等の情報は、真正、正確かつ完全でなければならない。
- (7) 点検により、不適合箇所を発見した場合は、直ちに改善措置をとる。また、異常を認めた場合は、直ちに運転を停止する等の適切な緊急措置をとる。
- (8) 万が一、事故が発生した場合は、直ちに所轄官公庁及び社内関係先に報告するとともに、原因の究明、事故の拡大防止及び収束のために最善を尽くす。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

第1章 企業行動についての基準

1.3 総合品質保証

1.3.1 基本方針

- 1.3.1.1 トプコンは、人類社会に貢献するとの経営理念に則って、関連する法令を遵守するとともに「顧客指向」及び「品質第一」に徹し、顧客が満足する高品質で安全な商品及びサービスを提供する。
- 1.3.1.2 トプコンは、市場に提供するすべての商品及びサービスについて、通常有すべき有益性と安全性の確保並びに法令及び契約に基づき瑕疵のない製品及び役務を提供することを追求し、製造物責任(PL;Product Liability)事故及び契約責任(CL;Contract Liability)事故が生じないよう不断の努力と最善の注意を払う。

1.3.2 具体的行動基準

- (1) 顧客の立場に立った品質の確保を行う。
- (2) 関連する法令・規格等を遵守するとともに、顧客と第三者の権利を尊重する。
- (3) 商品及びサービスの品質及び安全性の確保のために、総合的品質保証体制を確立・維持し、あわせて総合的な施策を実施する。
- (4) 商品の開発・改良にあたっては商品の信頼性、安全性、操作性及び保守サービス性を十分考慮し、顧客の要求を満たし、かつ市場ニーズに合致するよう努める。
- (5) 商品及びサービスに係るすべての予知しうる危険に対処策を講じる。社員等は、係る対策が国際的な技術水準に照らして妥当であると判断されるレベルを維持するよう努めるとともに、これに必要な情報を常に収集するよう心掛ける。
- (6) 万が一、問題が発生した場合には、迅速かつ適切に被害者の救済を行うとともに、係る問題の真因を究明し、再発防止に努める。
- (7) 全部門、全員参加で品質の作り込みを行う。
- (8) 法令及び契約に基づき瑕疵のない商品又はサービスを提供する責任を負っていることを認識するとともに、顧客、購入先その他取引先との保証体制を明確にし、契約責任(CL)に関する万全の管理体制を確立するよう努める。
- (9) 医療用具の製造又は輸入販売にあたっては、薬事法及び関連法規を遵守し、その付属品を含めて有効性及び安全性の確保に努める。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る ←](#)

第1章 企業行動についての基準

1.4 お客様の尊重

1.4.1 基本方針

トプコンは、お客様の多様化するニーズを満足できる安全で有用な商品及びサービスを提供し、社会に貢献することを目指す。

1.4.2 具体的行動基準

- (1) 社員等は、CS(Customer Satisfaction)理念に則って顧客より関連情報を収集・管理し、係る情報に基づいて営業業務の改善及び諸計画の立案・実施することにより、顧客サービスに努める。
- (2) お客様のニーズを尊重し、最大限に満足していただける商品及びサービスを提供するための体制、事業の仕組みを構築する。
- (3) 商品の販売及びサービスにおいては、国や地域ごとの法令及び契約を遵守するとともにお客様のニーズを満足すべく最大限努める。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る ←](#)

第1章 企業行動についての基準

1.5 営業活動

1.5.1 基本方針

トプコンは、常に顧客のニーズに基づき、優れた商品とサービスを提供し、遵法方針に則り、公正な営業活動を行う。

1.5.2 具体的行動基準

1.5.2.1 公正な営業活動

(1) 営業活動を行うにあたっては、顧客に対しトプコンを代表する者であることを認識し、誠意をもってすべての顧客に公正かつ公平に接するものとし、多種多様な顧客に対し、それぞれ適切な条件で取引を行う。

(2) 互恵取引

取引先から商品やサービスを購入するにあたり、当該取引先が当社から商品やサービスを購入することを条件として強要してはならない。

1.5.2.2 公正な競争

(1) 誹謗

顧客への商品の販売やサービスの提供にあたっては、同業他社やその取扱品等を誹謗してはならない。

(2) 競争法の遵守

営業活動を行うにあたっては、本章第8項(競争法遵守)に従い、独占禁止法並びに関連法規を遵守し、自由で公正な競争に努めなければならない。

1.5.2.3 情報管理

(1) 営業活動を行うにあたっては、市場及び顧客(同業他社を含む。)に関する情報を正当な方法で入手し、これを商品企画・設計・生産計画に反映し、事業の牽引力となるように努めるとともに、不正な手段を用いて他社の企業秘密(同業他社の社員の引抜きを含む。)やその他の秘密情報を取得してはならない。

(2) 商品計画、市場調査・研究、生産計画・生産能力等の秘密情報については、所定の手続を経ないで開示、漏洩してはならない。

(3) 情報管理に関する基準は、第2章第4項(情報)に定めるところによる。

1.5.2.4 接待及び贈物

営業活動を行うにあたって接待又は贈物等を行う場合は、各国・地域の法令及び健全な商慣行を厳守するものとする。その基準は本章第9項(不適正な支出の禁止)に定めるところによる。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

第1章 企業行動についての基準

1.6 調達活動

1.6.1 基本方針

トプコンは、調達活動に係る法令を遵守するとともに、公正な取引関係のもとに必要な資材(役務を含む。)を適切な品質・価格及び納期で調達する。

環境に調和した商品作りのため、グリーン調達を推進する。

1.6.2 具体的行動基準

- (1) 取引先に対して公平に競争の機会を与えるとともに、品質、価格、納期、サービス、安定供給及び環境への配慮の面からの総合的かつ公正な評価に基づき調達する。
- (2) 取引先から職務に関連して個人的な利益の供与を受けないことはもとより、関連する法令及び健全な商慣習を遵守し、取引先との契約上の義務を誠実に履行するとともに、取引先と相互に利益のある関係を樹立し、これを維持する。
- (3) 商品の品質維持にあたり、一定水準を満たした資材を安定的に調達するため、取引先とともに品質管理に努める。
- (4) 資材の調達にあたり、省資源、省エネルギー、長期使用可能、リサイクル可能、リサイクル材の利用、環境関連物質の含有量を調査し、環境負荷の少ない資材を優先的に採用する。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

第1章 企業行動についての基準

1.7 輸出管理

1.7.1 基本方針

トプコンは、国際的な平和と安全の維持を阻害するおそれのある取引に関与しないため、日本又は事業活動を行う国の外国貿易管理に関連する法令及び「米国輸出管理法」並びにこれらに関連する諸法規の趣旨をよく理解するとともに、これらを守るために「トプコン輸出管理プログラム」(以下、「管理プログラム」という。)を策定し、遵守する。

1.7.2 具体的行動基準

本基準実施の細目は、管理プログラム及びこれらに関する実務マニュアルの定めるところによる。プログラムの骨子は以下のとおり。

- (1) 社員等は、規制物資等を日本又は事業活動を行う国の外国貿易管理法並びにこれらに関連する諸法規に違反して、輸出及び輸出に関連する取引を行わない。
- (2) 社員等は、米国製品及び技術情報を米国輸出管理法並びにこれらに関連する諸法規に違反して、輸出及び再輸出を行わない。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

第1章 企業行動についての基準

1.8 競争法遵守

1.8.1 基本方針

トプコンは、事業活動を行うにあたり、事業者の公正かつ自由な競争を促進して、市場の健全な発展と消費者を含む社会全体の福利向上を図ることを目的として制定されている競争法を厳格に遵守する。

1.8.2 具体的行動基準

社員等は、以下に掲げる行動を行ってはならない。但し、これらは例示であり、禁止行為の詳細は、日本における独占禁止関連法令の他、米国、欧州連合等、各国や地域ごとの法令の定めるところによる。

- (1) 社員等は、同業他社との間で、両者間の競争を制限するような、販売価格、見積・入札金額、生産又は販売数量・金額に関する制限、シェア割り、受注予定者の決定、販売先・販売地域の制限、生産設備・技術の制限等の合意を行わない。この合意は、具体的に覚書や議事録の形で合意する場合のみならず、口頭による合意も含む。
- (2) 社員等は、上記のような合意を行っているという疑義を招くような同業他社との会合の結成・参加、約束・取決め、情報交換等を行わない。
- (3) 社員等は、販売業者に対し、取扱商品の再販売価格を強要してはならない。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

第1章 企業行動についての基準

1.9 不適正な支出の禁止

1.9.1 基本方針

1.9.1.1 トプコンは、合法的に事業活動を行うものとし、非合法又は不適切な礼金や賄賂を提供しない。

1.9.1.2 社員等は、業務上の接待費の支出及び贈物の提供にあたり法令を遵守し、健全な商慣習に従うように努めなければならない。

1.9.2 具体的行動基準

1.9.2.1 社員等は、直接又は間接を問わず、以下に定める者(その代理人を含む。)に対し、事業活動において有利な決定を導くため又は有利な決定に対する謝礼として、報酬、接待、贈物、寄付、祝儀その他いかなる形態によっても、関連する法令に違反し、又は健全な商慣習・社会通念を越えた金銭の支払若しくは価値あるものの提供又はその申込みを行ってはならない。

(1) 一般顧客(法人又は個人を問わない。)

(2) 国内外の政府機関(地方公共団体及び国際機関を含む。)又はその職員(元職員を含む。)

(3) 政治家(候補者を含む。)又は政治団体及びその職員

1.9.2.2 社員等は、仲介人(トプコンのために取引契約又は取引関係を勧誘、確保、保持することにより報酬を得る者。以下同じ。)を使用する場合、事前に仲介人の行うサービス及びその報酬等につき、合理的な取決めをしなければならない。また、法令上の規制がある場合には、仲介人への報酬の支払につき当該法令に従い事前に連絡する等の必要な措置を講じなければならない。

1.9.2.3 上記は例示であり、具体的細目は各国・地域ごとの法令の定めるところによる。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

第1章 企業行動についての基準

1.10 政治寄付

1.10.1 基本方針

トプコンは、法令で認められる場合を除き、直接又は間接を問わず、政治家(候補者を含む。以下同じ。)又は政治団体に対して政治寄付等を行わない。

1.10.2 具体的行動基準

- (1) 政治家又は政治団体に対し、法令、会社規定に反した不適正な政治寄付等を行わない。
- (2) 直接、間接を問わず、政治家又は政治団体に対し、次の行為を行わない。
 - 1) 通常の商慣行より有利な条件での販売及び貸付等(債務保証等を含む。)
 - 2) 接待、贈物等の利益の供与(法令に違反せず、かつ社会的妥当性が認められる場合を除く。)
- (3) 官公庁向け営業に関し、政治家等(元議員等、秘書、元秘書を含む。)本人又は本人が関係する会社に対しては、口銭、コンサルタント料等の名目の如何を問わず、金銭を支払わず、また、便宜を供与しない。
- (4) 代理店等の第三者に、前記第1号から第3号までに定める禁止行為をさせない。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#) ←

第1章 企業行動についての基準

1.11 政府との契約

1.11.1 基本方針

トプコンは、顧客としての政府機関(地方公共団体を含む。以下「政府」という。)との取引に関し、法令又は契約に違反する行為を行わない。

1.11.2 具体的行動基準

社員等は、以下に掲げる行為を政府との取引において行ってはならない。但し、これらは例示であり、具体的細目は各国・地域ごとの法令の定めるところによる。

- (1) 政府との契約における契約金額の不実な見積等、政府に関する虚偽情報の提供
- (2) 競争法に違反して同業者と談合又は協定する等、本章第8項(競争法遵守)により禁止される行為
- (3) 政府又はその職員(元職員を含む。以下同じ。)に対する本章第9項(不適正な支出の禁止)により禁止される報酬、接待、贈物、寄付、祝儀等の不適正な支出
- (4) 政府又はその職員から入手した機密情報の守秘義務に違反しての漏洩
- (5) 政府の職員の採用による政府の規則に違反する利害相反活動の実施

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

第1章 企業行動についての基準

1.12 適正な会計

1.12.1 基本方針

社員等は、会計に関する法令・基準を遵守し、適正に会計処理と会計報告を行う。

1.12.2 具体的行動基準

- (1) 会計情報を適時かつ正確に記録し、不適正な会計処理、誤解を与える会計報告を行わない。
- (2) 会計情報を迅速かつ正確に開示できるよう、経理システムの維持、改善に努める。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#) ↩

第1章 企業行動についての基準

1.13 広報

1.13.1 基本方針

トプコンは、その経営理念・経営方針、財務データ等の企業情報を、マスメディア、証券アナリスト等を通して適時・適切に開示することが重要であることを認識し、積極的に広報活動を行うことによって、顧客、株主を始めとする投資家、地域社会等から正しい理解と信頼を勝ち得、あわせてトプコンの知名度や企業イメージの向上を図る。

又、各種のコミュニケーション・ツールを用いて社員等のモラル向上及び企業との一体感醸成を図る。

1.13.2 具体的行動基準

- (1) 企業情報を、関係法令に従い適時・適切に開示する。
- (2) マスメディア、証券アナリスト等社外向けの広報活動においては、その目標を明確にし、公表すべき情報やデータを揃え、客観的事実に基づき誠実にこれを行う。
- (3) 社員等が、新聞、雑誌、テレビ等のマスメディアと接触し、情報を開示する場合は、事前に広報責任者の了解を得ることを原則とする。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

第1章 企業行動についての基準

1.14 広告

1.14.1 基本方針

トプコンは、広告活動を通じ、事業活動を行う国や地域においてTOPCONブランドの知名度向上を図り、また、TOPCONブランド(及びトプコン製品)に対する人々の好意と信頼を獲得することにより、健全な販売促進と海外事業の発展のための環境づくりを行う。また、グローバルなコミュニケーション活動を通じてそれぞれの国や地域における良き企業市民としてのイメージの確立を図る。

1.14.2 具体的行動基準

- (1) 広告活動における表現は常に前向きかつ積極的なものであり、また事実に基づくものでなければならない。
- (2) 品位の劣る広告や、他を誹謗することによりトプコンの優位性を訴求するような広告は行わない。
- (3) 政治・宗教等については広告表現の対象としない。又、人種差別につながるような表現や個人の尊厳を傷つけるような表現は使用しない。
- (4) 顧客に誤認され又は誤認されるおそれのある不当な表示(誇大表示・誤認表示)を付し、又は顧客に対して過大な景品類を提供してはならない。(本章第8項関係)
- (5) 広告活動においては、CI(Corporate Identity)マニュアル等を活用するものとする。
- (6) 広告活動の推進にあたっては、広告代理店、媒体会社等の外部関係者を総合的かつ公平に評価し、その能力を幅広く活用する。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

第2章 会社と社員等の関係についての行動基準

2.1 人間の尊重

2.1.1 基本方針

- (1) トプコンは、人間尊重の立場に立って、個人の多様な価値観を認め、人格と個性を尊重するとともに、社員等に自己実現の場を与え、その資質を最大限に発揮させる。
- (2) トプコンは、法令遵守はもとより、基本的人権を尊重し、差別的取扱い等を行わない。又、児童労働、強制労働を認めない。
- (3) トプコンは、創造的、効率的に業務を遂行できる環境を整え、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現を支援する。

2.1.2 具体的行動基準

- (1) 品位と良識を兼ね備えた、自立した社会人として責任をもって行動する。
- (2) 個人の基本的人権、多様な価値観、個性、プライバシーを尊重し、人種、宗教、性別、国籍、身体・精神障がい、年齢、性的指向等に関する差別的言動、暴力行為、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント(職場のいじめ、嫌がらせ)等の人格を無視する行為をしない。
- (3) 自らの成果領域と責任権限に基づき業務を遂行する。又、能力向上のために自己研鑽に努める。
- (4) 多様な働き方によりワーク・ライフ・バランスを実現し、能力を最大限に発揮できるよう努める。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

第2章 会社と社員等の関係についての行動基準

2.2 職場環境

2.2.1 基本方針

トプコンは、社員等がその資質を最大限に発揮できる職場環境を創るため、安全衛生及び良好な人間関係を維持する上で必要とされる措置を実施する。

2.2.2 具体的行動基準

- (1) 闊達で秩序ある職場風土の実現に努める。
- (2) 5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を推進する。
- (3) 建築物・設備等につき、必要な安全対策を講じる。
- (4) 安全性と健康を重視した作業基準を制定し、遵守する。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#) ←

第2章 会社と社員等の関係についての行動基準

2.3 社員等の外部活動

2.3.1 基本方針

トプコンは、社員等の適正な社外活動が行われるよう努めるとともに、その社会奉仕活動等を支援する。

2.3.2 具体的行動基準

2.3.2.1 政治活動

- (1) トプコンは、社員等の公民権の行使について最大限配慮する。
- (2) 社員等の政治活動は、就業時間外に会社施設以外の場所で行われなければならない。
- (3) 社員等が公職に就任し、勤務に支障のある場合は、会社を休職する。

2.3.2.2 社会奉仕活動等

- (1) 社員等の社会奉仕活動等は、就業時間外に行う。
- (2) トプコンは、個々のケースに応じ、休暇の取得、施設の便宜供与等により社員等の社会奉仕活動等を支援する。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る ↩](#)

第2章 会社と社員等の関係についての行動基準

2.4 情報

2.4.1 基本方針

- (1) トプコンは、情報の財産価値を認識し、他人の情報を尊重するとともに、会社情報の漏洩、不正利用の防止及び会社情報に係る財産権の保護に努めるものとする。
- (2) トプコンは、事業活動において個人情報の保護を適切に行う。

2.4.2 定義

- (1) 本基準において「会社情報」とは、社員等がその業務遂行過程において取扱うすべての情報(第三者に係る情報を含む。)で、それが漏洩された場合、企業活動に不利益を与えるものをいい、有形・無形を問わず、作成者・所有者の如何を問わない。
- (2) 本基準において「個人情報」とは、社員等がその業務遂行過程において取扱う顧客、取引先等の役職員、求人応募者及び社員等その他個人に関する情報で、当該個人を識別することを可能にするものをいう。

2.4.3 具体的行動基準

2.4.3.1 情報の取扱

社員等は、職務上生じ又は入手した情報を会社情報として取扱い、その管理及び漏洩防止に努めなければならない。

2.4.3.2 情報の尊重

- (1) 社員等は、第三者の情報に対して十分注意を払い、不正な手段によりこれを入手し、又は不正な目的のためにこれを開示若しくは利用してはならない。
- (2) 社員等は個人情報を尊重・保護し、その収集、管理、活用にあたっては個人情報保護方針に基づき適切かつ公正な方法で行わなければならない。

2.4.3.3 秘密漏洩の禁止

- (1) 社員等は、在職中又は退職後を問わず、在職中に知り得た会社情報及び個人情報を開示、漏洩してはならない。
- (2) 社員等は、入社前に知得した他者(法人、個人を問わない。以下同じ)情報について守秘義務を負っている場合には、当該他者の情報をトプコンに開示、漏洩し又は職務に流用してはならない。

2.4.3.4 不正利用の禁止

- (1) 社員等は、在職中又は退職後を問わず、会社情報及び個人情報を不正に利用し、自己若しくは第三者の利益を図り又はトプコンに損害を与えてはならない。
- (2) 社員等は、未公開の会社情報その他の未公開の内部情報に基づき、インサイダー(内部者)取引を行ってはならない。
- (3) 情報の入手又は社内外への伝達のために、機器、通信、設備等を不適正に使用してはならない。

2.4.3.5 ソーシャルメディアの利用について

- (1) ソーシャルメディア上での言動は、トプコンの社会的評価及びブランド価値に影響を及ぼす可能性があり、私的利用時に、トプコンに関連する事柄を発言する場合は、可能なかぎり当社の立場、戦略、意見を代表するものでなく個人の見解である旨を明示する。
- (2) ソーシャルメディアでは、顧客、取引先、関係先、紛争の相手等の関係者が読者となる可能性がある。ソーシャルメディア上に投稿した内容は完全に削除することが困難な特性を理解し、投稿内容は事前に慎重に吟味した上で情報発信をする。
- (3) 著作権をはじめとする知的財産権、プライバシー及び肖像権を保護する各種法令、景品表示法や商取引法などのインターネット上の表示を規制する各種法令を遵守しなければならない。
- (4) 社員等は、投稿内容やプロフィール欄等に、トプコンのマークや社章、ロゴ等を無断で使用してはならない。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

第2章 会社と社員等の関係についての行動基準

2.5 技能・技術者倫理の遵守

2.5.1 基本方針

社員等は、高い倫理観をもって技能・技術活動に取り組む。

2.5.2 具体的行動基準

- (1) 専門的知識や技能・技術を活かして、人類の健康・幸福・安全、環境調和型製品の開発・製造に貢献する。
- (2) 科学的事実に基づき、また、法令や社会通念の変化を常に認識して、公正かつ自律的に判断し、正直かつ誠実に行動する。
- (3) 後継技能者・技術者の育成と技能・技術の継承に努める。
- (4) 関係者とのコミュニケーションの活性化を図り、闊達で透明性のある職場風土づくりに努める。
- (5) お客様との契約に基づき知り得た情報について秘密保持の義務を全うし、また、会社の秘密情報を許可なく第三者に開示、漏洩しない。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#) ←

第2章 会社と社員等の関係についての行動基準

2.6 知的財産権の尊重

2.6.1 基本方針

トプコンは、知的活動の成果を知的財産権によって保護し、会社の知的財産権を積極的に活用するとともに、他人の知的財産権を尊重する。

2.6.2 定義

本基準において「知的財産権」とは、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権、回路配置利用権、不正競争防止法により保護される営業情報(トレードシークレット、ノウハウ)等及びこれらと同等の価値を有する発明・考案・意匠等をいう。

2.6.3 具体的行動基準

2.6.3.1 知的財産権の取扱

- (1) 社員等の職務上生じた知的財産権は、トプコンに帰属する。
- (2) 社員等が図面、報告書、プログラム等の著作物に関し職務著作をしたとき又は半導体集積回路の回路配置に関し職務創作をしたときは、その著作権又は回路配置利用権はトプコンに帰属する。
- (3) 社員等が在職中に完成した職務発明、職務考案、意匠の職務創作については、それが当該社員等の退職後に判明した場合であっても、トプコンはその出願権又は特許権等を承継する。

2.6.3.2 他人の知的財産権の尊重

社員等は、他人の知的財産権を十分に尊重し、業務上他人の知的財産権を使用する場合は、適正な手続を経なければならない。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#) ←

第2章 会社と社員等の関係についての行動基準

2.7 海外安全

2.7.1 基本方針

トプコンは、海外出張している社員等及び海外赴任している社員等並びにその家族の安全を確保するため、突発的危機対応システムを構築し、事件・事故の予防策を中心とした安全対策の確立・強化充実を図る。

2.7.2 具体的行動基準

- (1) 社員等はこの基本方針に基づき、常に安全の確保に努めなければならない。
- (2) 事件・事故の発生時には、人命を尊重することはもとより、被害を最小限度に止めるための必要施策を直ちに構ずるものとする。
- (3) 所管部門の責任者は、常に周辺地域で発生した事件・事故の実態の把握・分析に努めるとともに、安全管理施策の考案を怠ってはならない。
- (4) 海外出張の社員等が事件・事故に遭遇した場合、当該地域に子会社があるときは、当該子会社の長は救援に最大限の努力を尽くすものとする。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#) ↩



印刷する

[ホーム](#) [社会・環境活動\(CSR\)](#) [CSRに関する主な方針](#)

CSRに関する主な方針

- [▶ CSR基本方針](#)
- [▶ BCP基本方針](#)
- [▶ 個人情報保護方針](#)
- [▶ 環境ビジョン／環境方針](#)
- [▶ トプコングループ人財育成基本方針](#)
- [▶ トプコングループ安全健康基本方針](#)

[CSRのTOPへ戻る ↩](#)

Copyright © 1997-2013 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.

CSR基本方針

- (1) グローバル企業にふさわしい価値観、基準を形成・共有し実践するため、CSR活動を経営の中に位置づけ、計画的に取り組みます。
- (2) グローバル・コンパクトに掲げられるとおり、影響力のおよぶ範囲内で、人権、労働基準、環境、腐敗防止に関して、国際的に認められた規範を支持し、実践します。
- (3) 有用な商品の開発、製造、販売、サービスを通じて、人類社会への貢献を主体的・能動的に果たします。
- (4) 環境に配慮した事業プロセスの構築、商品・サービスの提供等により、環境経営を推進します。
- (5) 役員、社員一人ひとりの日常活動への定着、グループ・グローバルでの浸透、定着を図ります。
- (6) 積極的な情報発信により、トプコングループに対するすべてのステークホルダーの理解と信頼を獲得します。

制定:2008年10月

[CSRに関する主な方針のTOPへ戻る](#) ←

Copyright © 1997-2013 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.

[印刷する](#)[ホーム](#) [社会・環境活動\(CSR\)](#) [CSRに関する主な方針](#) [BCP基本方針](#)

BCP基本方針

- (1) 社員とその家族の安全と安心を優先します。
- (2) お客様への商品の供給責任を全うします。
- (3) 地域とお客様の復旧・復興を支援します。
- (4) 事業の早期復旧を図り、経営への影響を最小限にとどめます。

制定:2009年4月

[CSRに関する主な方針のTOPへ戻る](#) ←

Copyright © 1997-2013 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.

個人情報保護方針

個人情報保護方針

株式会社トプコン(以下「当社」といいます)は、お客様の個人情報を尊重し、その保護に努めます。当社は、その事業活動において、以下の個人情報保護方針を実施します。

1.基本方針

1. 個人情報に関する法令およびその他の規範を遵守します。
2. 当社がお客様から個人情報を収集する場合、特に個別にご説明しないとき、その個人情報は、当社、グループ会社、その他から、お客様への商品またはサービスのご提供やご紹介、お客様に役立つと思われるご案内をさせて戴く目的に使用します。また、情報の分析、加工、お客様へのフィードバック等の目的で、第三者への提供や預託をさせて戴くことがあります。これらの取扱は、当社の事業内容や規模に合せて適切に行います。
3. 不正アクセス、漏洩、紛失、破壊、改ざん等、個人情報に関するリスクに対して、合理的な安全対策を講じます。
4. 個人情報保護の社内体制を整備し、さらに、これを引き続き見直し改善して行きます。

2001年4月1日制定

株式会社トプコン

取締役社長 平野 聡

トプコンホームページの個人情報保護について

『トプコンホームページ』をご利用いただくお客様は、特に個人情報を開示されなくともトプコンホームページでご提供するほとんどのサービスをご利用になれます。(一部のサービスにつきましては、お客様に個人情報のご提供をお願いすることがあります。) 株式会社トプコン(以下「当社」といいます)は、トプコンホームページ(以下「当サイト」といいます)のご利用者であるお客様の個人情報を尊重し、その保護に努めております。

お客様へのお願い

当サイトにリンクされている当社以外のウェブサイトにおけるお客様の個人情報の収集、取扱、安全確保につきましては、当社はいかなる責任も負うものではありません。当社以外のウェブサイトにおける個人情報の保護につきましては、お客様ご自身でその内容をご確認またはお問合せください。

2.個人情報をお聞きするとき

お客様に個人情報をお聞きするのは、次のような場合です。

1. セミナー、展示会等への参加お申込みの場合。
2. 商品やサービスに関する資料等をご請求される場合。
3. 商品やサービスに関するご質問・お問合せをされる場合。
4. 採用活動等に関連して、ご登録や資料等を請求される場合。
5. アンケート調査等へご協力いただく場合。

ここでいう個人情報とは、氏名、住所、電話番号、eメールアドレス等のお客様ご自身を識別することができる情報をいいます。

3.個人情報の利用目的

当社は、お客様から個人情報をご提供いただく場合、あらかじめ個人情報の利用目的を明示し、その利用目的の範囲内で利用します。あらかじめ明示した利用目的の範囲を超えて、お客様の個人情報を利用する必要が生じた場合は、お客様にその旨をご連絡し、お客様の同意をいただいた上で利用します。尚、当社の保有する個人情報の利用目的については、[個人情報の利用目的](#)をご覧ください。

4.個人情報の第三者への開示・提供

(1)当社は、お客様のご承諾を得ないで、第三者にお客様の個人情報を開示または提供することは一切行いません。

しかし、次のような場合、当社の関係会社、代理店等、業務委託先その他の第三者へ、お客様の個人情報を開示、提供または預託する場合があります。

1. お客様に、商品やサービスまたはそれらに関する各種情報や資料をご提供するために必要な場合。
2. お客様から製品やサービス、情報等の提供を求められ、当社がその実現のために必要と認めた場合。
3. 法令等により要求される場合、または公共の利益を保護するために必要な場合。
4. お客様個人を識別することができない範囲内や状態で開示する場合。
5. お客様、当社または第三者の正当な利益を保護するために必要な場合。

(2)当社は、お客様からの商品や修理・サービスに関するお問い合わせ等に対し、当社の関係会社や代理店より対応させていただくことが適切と判断される場合に、お客様の住所、氏名、電話番号等を当該関係会社等へ提供することがあります。

この場合、お客様は当社に対し当該関係会社等への個人情報提供の停止を請求することができます。

5.個人情報の開示等の請求手続き

当社は、保有するお客様ご自身の個人情報について、1)開示の請求、2)利用目的の通知の請求、3)訂正の請求、4)追加の請求、5)消去の請求、6)利用の停止または第三者提供の停止の請求に対応させていただきます。請求様式(書面)等の詳細につきましては[開示等の請求手続き](#)をご覧ください。

6.個人情報に関するお問い合わせ

当社の個人情報保護に関するお問合せはトプコン[個人情報保護全社相談窓口](#)にお願いいたします。

当社の国内グループ会社の個人情報保護に関するお問合せは当社の[国内グループ会社各社の個人情報保護相談窓口](#)にお願いいたします。

7.その他の事項

1. 本『個人情報保護方針』は、株式会社トプコンの日本国内における個人情報の取り扱いに関するものです。当社の国内関係会社、および海外現地法人は対象としていません。
2. 当社がご提供する一部のサービス(当社が運営するウェブサイトのサービスを含む)では、お客様から個人情報をご提供いただけない場合はご利用できないものがありますので、あらかじめご了承ください。
3. 16歳未満のお客様は、保護者の方の同意を得た上で、個人情報をご提供いただきますようお願いいたします。
4. 当社では、より良くお客様の個人情報の保護を図るために、または、関係法令の変更に伴い、個人情報保護方針を改定することがあります。

環境ビジョン／環境方針

トプコングループは、グローバル市場に商品を提供する企業グループとしての社会的責任を全うするために、重要な課題である環境問題に対するあるべき姿として、以下の通り『トプコングループ環境ビジョン2020』を掲げます。

トプコングループ環境ビジョン2020

1. 地球温暖化防止

トプコングループでは、地球温暖化を最重要の環境問題と捉え、日本国内の拠点で排出するCO₂を1990年度に比べ、2020年度末までに25%削減することを目指します。

海外の拠点はこれに準じてCO₂排出量の削減に努めます。

2. 商品を通じた貢献

商品そのもののライフサイクルを通じた環境負荷をより一層低減するため、省エネ化、省資源化を推進します。また、お客様とともに地球温暖化防止、資源有効利用、生物多様性保全に貢献できる商品、技術、サービスの提供に努めます。

更に、ものづくりにおいては、開発・製造・販売を含めた企業活動から発生する廃棄物は基本的にリサイクルし、有効利用に努めます。

制定:2011年6月

トプコン本社及びトプコンテクノハウス本社の環境方針

トプコン本社及びトプコンテクノハウス本社は、精密光学機器を生産、販売する企業として、「『かけがえのない地球』環境を、健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、現存する人間の基本的責務」との認識に立って、「TOPCON WAY」、事業行動基準、環境影響評価・関係法令等に基づき、環境活動に関するトプコン本社及びトプコンテクノハウス本社の環境方針を次の通り定めます。

- 1) 環境問題への取組みを、経営の最重要課題の一つとして位置付け、経営者から一般社員まで全員参加の環境マネジメントシステム・組織体制を整備するとともに、環境目的・目標を設定し、継続的な改善及び汚染の予防を図ります。
- 2) 関係法令・条例・指導基準・協定及び受け入れたその他の要求事項等を順守するとともにより厳しい自主基準を設定し、管理徹底に努めます。
- 3) 環境負荷低減、生物多様性保全のための重点項目として、以下の目標を設定し活動します。
 - (1) 省資源、省エネルギー、再資源化等に配慮した環境調和型製品の開発をおこないます。
 - (2) 有害化学物質の削減及び化学物質の管理の改善をおこないます。
 - (3) 廃棄物の排出削減に注力するとともに、循環資源として価値の向上を図ります。
 - (4) 省エネルギー活動を推進し、二酸化炭素の排出を削減します。
- 4) 構内周辺も含めた美化に努めるとともに、地域活動への積極的参加をおこない、地域社会との連帯・協調を図ります。
- 5) 環境教育及び広報活動の充実による社員意識の向上と、全員参加による環境活動の向上を図ります。
- 6) トプコングループ全体のレベルアップを目指して、関係会社等に対して計画的及び積極的な指導・支援をおこないます。

制定:1997年2月(改定:2011年8月)

[CSRに関する主な方針のTOPへ戻る](#)

[印刷する](#)[ホーム](#) [社会・環境活動\(CSR\)](#) [CSRに関する主な方針](#) [トプコングループ人財育成基本方針](#)

トプコングループ人財育成基本方針

1. トプコングループは、人財こそが、最も大切な資産であると位置づけ、多様な属性を有する社員に能力伸長と自己実現の機会を提供し、その資質を最大限に発揮させます。
2. トプコングループは、専門性を有する人財、グローバル性を有する人財*を計画的に育成します。
3. トプコングループは、期待する人財像(行動特性&価値観)を明確にし、全社員と認識を共有します。
4. トプコングループ各社は、人財育成基本方針に準拠し、自社の業態・規模等にマッチした人財育成体系及び具体的計画を策定し、社員に周知するとともに、これを実行します。

*グローバル性を有する人財

トプコングループの経営理念を共有し、異文化を受容しながら、すべてのステークホルダーと直接的なコミュニケーションがとれ、業務を遂行できる人財

制定:2010年4月

[CSRに関する主な方針のTOPへ戻る](#)

Copyright © 1997-2013 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.

[印刷する](#)[ホーム](#) [社会・環境活動\(CSR\)](#) [CSRに関する主な方針](#) [トプコングループ安全健康基本方針](#)

トプコングループ安全健康基本方針

トプコングループは、社員の安全と健康の確保を経営の最重要課題の一つと位置づけ、「安全で快適な職場環境づくりと心身の健康の保持増進」を推進します。

1. 労働安全衛生関係法令・指針・通達等を遵守します。
2. 次の事項について、目標・目的を定め、実行します。
 - (1) 業務に起因する災害や疾病の撲滅ならびにこれらを誘発するリスクの低減
 - (2) 全社員が個々の能力を充分発揮するための心身の健康保持増進
3. 私たちの安全健康に関する取り組みや成果を積極的に公表し、社会の安全健康管理水準の向上に貢献します。

制定:2009年1月

[CSRに関する主な方針のTOPへ戻る](#)

Copyright © 1997-2013 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.



印刷する

ホーム 投資家情報(IR)

最新決算情報

2013年3月期決算(2013年4月26日)

決算短信 [422KB] 説明会資料 [5,719KB] 音声配信

最新プレゼンテーション

中期経営計画2015(2013年5月30日)

プレゼンテーション資料 [7,241KB] (53ページ) 音声配信 [50分]



平成26年3月期第1四半期決算は7月31日(水)15:00頃発表予定です。内容につきましては、当日夕刻当ホームページに掲載いたします。

最新情報

- IRニュース 2013年6月28日
 第120期定時株主総会の決議通知、議決権行使結果(臨時報告書)を掲載しました。
- IRニュース 2013年6月27日
 第120期有価証券報告書を掲載しました。
- IRニュース 2013年6月26日
 第120期株主通信を掲載しました。
- お知らせ 2013年6月26日
 新社長インタビューを掲載しました。
- IRニュース 2013年6月17日
 中期経営計画2015の音声配信を追加しました。

[IR関連情報 一覧 >>](#)



- ・ 経営戦略・事業戦略
- ・ 経営体制
- ・ IRポリシー
- ・ コーポレートガバナンス



- ・ 業績ハイライト
- ・ セグメント情報
- ・ その他の指標
- ・ 貸借対照表
- ・ 損益計算書
- ・ キャッシュフロー状況



新社長
インタビュー

株価情報

07/18 09:24	東証1部
現在値	1,152
前日比	+4
売買高 (千株)	129.0

[▶ 株価詳細](#)

情報提供: QUICK

アクセスランキング

- 1 中期経営計画2015
- 2 株主総会
- 3 投資家の皆様へ
- 4 新社長インタビュー
- 5 IRカレンダー

集計期間: 2013年6月後半



最新資料

最新IR資料一括ダウンロード
 [12.9MB]

平成25年3月期決算短信
[422KB]
(2013年4月26日更新)

2013年3月期決算説明会資料
[5,719KB]
(2013年4月26日更新)

- ・ 1株当たり情報

 IRライブラリー

- ・ 決算短信
- ・ 説明会資料
- ・ 株主通信 (事業報告書)
- ・ 有価証券報告書
- ・ [アニュアルレポート](#)
- ・ 会社案内
- ・ [ファクトブック](#)
- ・ [旧ソキアIR資料](#)

第120期株主通信 
 [1,043KB]
 (2013年6月26日更新)

第120期有価証券報告書 
 [857KB]
 (2013年6月27日更新)

中期経営計画2015 
 [7,241KB]
 (2013年5月30日更新)

 株式・債権情報

- ・ 大株主・配当金の推移等
- ・ 株式関係手続き
- ・ 株主総会
- ・ 電子公告
- ・ 社債・格付情報



Copyright © 1997-2013 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.

個人投資家のみなさまへ

個人投資家のみなさまに、トプコンの業績や事業活動などをより一層ご理解していただくためのページです。

最新情報

- 2013/06/28 [第120期定時株主総会の決議通知、議決権行使結果\(臨時報告書\)を掲載しました。](#)
- 2013/06/27 [第120期有価証券報告書を掲載しました。](#)
- 2013/06/26 [第120期株主通信を掲載しました。](#)
- 2013/06/26 [新社長インタビューを掲載しました。](#)
- 2013/06/17 [中期経営計画2015の音声配信を追加しました。](#)

[IRニュース一覧](#) | [ニュースリリース一覧](#) | [最新情報一覧](#) |

社長のごあいさつ



私たちが目指しているものや、経営に対する姿勢、考え方をお話します。

トプコンについて



私たちの行う事業の内容、歴史や強みなどを紹介します。

IRライブラリー



決算短信、有価証券報告書、株主通信などの、投資に関わる資料を紹介しています。

財務データ



業績ハイライトやセグメント情報など、財務にまつわるデータを公開しています。

株式について



株式に関する手続きや、配当に関してなどの情報をお知らせいたします。

お問い合わせ:FAQ



私たちへの問い合わせの方法やよくある質問などをご紹介します。



もっとトプコン！ トプコンの技術情報や環境活動についてもっと詳しくご紹介！

トプコンを支える技術	環境への取り組み
 <p>光学技術とデジタル技術を融合したトプコン技術の一部をご紹介します</p>	 <p>“かけがえのない地球”環境を次世代に引き継いでいくために</p>



トプコンの株主になりませんか？

株主としてトプコンに出資いただくことで、会社の経営に参画いただけるとともに、利益の一部を配当金としてお受け取りいただけます。株主としてのメリットは以下の通りです。

1: 会社経営に参加できる

⇒ 毎年開催されている株主総会に出席し、お手持ちの株数に応じて上程する議案に対し議決権を行使することができます。

[株主総会について](#)

2: 配当を受け取れる

⇒ 配当として利益の配分を受け取ることができます。当事業年度の剰余金の配当につきましては、安定的な配当を実現すべく、1株あたり10円といたしました。

[配当金について](#)

3: 年に2回、株主通信をお届けします

⇒ 上期および通期の事業概況と決算に関する報告書を受け取ることができます。

[株主通信について](#)

会社概要

商号: 株式会社 トプコン
(TOPCON CORPORATION)

本社: 〒174-8580 東京都板橋区蓮沼町75番1号
[トプコン案内図](#)
電話 (03)3966-3141(番号案内)

代表者: 取締役社長 平野 聡

設立: 1932年(昭和7年)9月1日

資本金: 16,638百万円(2013年3月末現在)

売上高 連結 97,345百万円
単独 37,775百万円
(2013年3月期)

事業内容: スマートインフラ(測量機器、3次元計測、GIS、移動体制御)、ポジショニング(GPS、マシンコントロールシステム、精密農業)、アイケア(眼科用検査・診断・治療機器、眼科用ネットワークシステム、眼鏡店向け機器)等の製造・販売
[詳しくはこちら](#)

上場証券取引所: 東京証券取引所市場第一部

海外駐在員事務所: アラブ首長国連邦(ドバイ市)
レバノン共和国(ベイルート)

トプコングループ: [国内](#) 11社
[海外](#) 55社
(2013年3月31日現在)

社員数: 連結 3,981名 単独 811名(2013年3月末現在)

国際規格認証取得: [ISO9001](#)
[ISO13485](#) [アイケア・カンパニー]
[ISO14001](#) [本社工場]



本社

最新の会社案内をPDFでご覧いただけます → [PDFダウンロード](#):  [8,105KB]



(別ウインドウで開きます)

PDFファイルをご覧いただくにはAdobe Acrobat Readerが必要です。
[Acrobat Reader](#)はアドビシステムズ社より無償配布されています。

Investor Relations

証券コード：7732

投資家情報 (IR)

有価証券報告書

最新資料

[第120期 有価証券報告書](#)  [857KB]

バックナンバー

2012年度

[第120期 第3四半期報告書](#)  [298KB][第120期 第2四半期報告書](#)  [327KB][2012年12月7日提出臨時報告書](#)  [105KB][第120期 第1四半期報告書](#)  [280KB]

2011年度

[第119期 有価証券報告書の訂正報告書](#)  [113KB][第119期 有価証券報告書](#)  [872KB][第119期 第3四半期報告書](#)  [287KB][第119期 第2四半期報告書](#)  [308KB][2012年1月31日提出臨時報告書](#)  [106KB][第119期 第1四半期報告書](#)  [273KB]

2010年度

[第118期 有価証券報告書](#)  [918KB][第118期 第3四半期報告書](#)  [352KB][第118期 第2四半期報告書](#)  [363KB]

第118期 第1四半期報告書  [328KB]

2009年度

第117期 有価証券報告書  [912KB]

第117期 第3四半期報告書  [342KB]

第117期 第2四半期報告書  [346KB]

第117期 第1四半期報告書  [311KB]

2008年度

第116期 有価証券報告書  [973KB]

第116期 第3四半期報告書  [331KB]

第116期 第2四半期報告書  [324KB]

第116期 第1四半期報告書  [307KB]

2007年度

第115期 有価証券報告書  [810KB]

2008年2月4日提出臨時報告書  [105KB]

2008年1月30日提出臨時報告書  [124KB]

第115期 半期報告書  [631KB]

2006年度

第114期 有価証券報告書の訂正報告書  [110KB]

第114期 有価証券報告書  [816KB]

第114期 半期報告書  [593KB]

2005年度

第113期 有価証券報告書  [741KB]

第113期 半期報告書  [420KB]

2004年度

第112期 有価証券報告書  [1,097KB]

第112期 半期報告書  [438KB]

2003年度

第111期 有価証券報告書  [972KB]

第111期 半期報告書  [385KB]

2002年度

第110期 有価証券報告書  [995KB]

第110期 半期報告書  [336KB]

2001年度

第109期 有価証券報告書  [962KB]

第109期 半期報告書  [463KB]

2000年度

第108期 有価証券報告書  [4,243KB]

第108期 半期報告書  [398KB]

1999年度

第107期 有価証券報告書  [1,055KB]



(別ウインドウで開きます)

PDFファイルをご覧いただくにはAdobe Acrobat Readerが必要です。
[Acrobat Reader](#)はアドビシステムズ社より無償配布されています。

事業内容・基本戦略

トプコンの事業

トプコンは「スマートインフラ・カンパニー」、「ポジショニング・カンパニー」、「アイケア・カンパニー」の3つの分野で事業を展開しています。



スマートインフラ・カンパニー



創業以来培ってきたトプコンの光学技術をベースに、最先端のGPS技術、レーザー技術、画像解析技術を融合し、世界を牽引する革新的なポジショニング製品を提供します。

◆[スマートインフラ・カンパニーの紹介](#)

主な製品:

トータルステーション、MILLIMETER GPS、3D移動体計測システム、3Dレーザースカナー、データコレクタ、セオドライト、電子レベル、レベル、ローテーティングレーザー、パイプレーザーなど



ポジショニング・カンパニー



GNSS測量、マシンコントロール、精密農業など高精度GNSS測位技術を利用した製品やシステムをグローバルに展開しています。

◆[ポジショニング・カンパニーの紹介](#)

◆[ポジショニング・カンパニーの技術1\(マシンコントロールシステムの仕組み\)](#)

主な製品:

測量用GNSS(GPS/GLONASS/Galileo)受信機、GIS用GNSS受信機、GNSSリファレンスステーションシステム、土木用マシンコントロールシステム、精密農業用マシンコントロールシステム、アセットマネジメントシステムなど



アイケア・カンパニー



眼科で使用する検査・測定、診断及び治療機器類、さらには眼鏡店での視力測定及び眼鏡レンズ加工などの各種機器やシステムを広く社会に提供し貢献しています。

◆アイケア・カンパニーの紹介

主な製品:

3次元眼底像撮影装置、眼底カメラ、無散瞳眼底カメラ、眼科用レーザ光凝固装置、ノンコンタクトタイプトメーター、スリットランプ、手術用顕微鏡、スペキュラーマイクロスコープ、眼科検査データファイリングシステムIMAGEnet、眼科電子カルテシステムIMAGEnet eカルテ、ウェーブフロントアナライザー、レンズエッジャー、視力検査装置、ビノビジョンアナライザー、オートレフラクトメータ、オートケラトレフラクトメータ、レンズメータ、屈折検査システムなど

トプコンの強み

1. 広帯域波長に対応する光学技術を保有
当社は幅広い波長領域の光学技術を有し各々の波長領域で事業展開をしています。このような技術を保有している同業は世界でも数社であり、これによりトータルソリューション提案が可能となります。
2. 高いグローバル性 海外売上高比率約75%(2013年3月期連結)
2013年3月期の連結海外売上高比率は75%、高いグローバル性を有するビジネスを展開し、その拠点を保有しています。
3. ワールドワイドマーケットでの多数の世界初・世界No.1商品
スマートインフラ・カンパニーでは機能・性能・価格とこれらのバリエーションの豊富さから常に世界トップシェアを有するトータルステーション。
ポジショニング・カンパニーでは世界初、農業機械にセンサーを取り付けることで、作物の栄養状態の計測と、それぞれの生育状況に応じた肥料の散布量の制御がリアルタイムで可能となるクロップスベック。
アイケア・カンパニーでは、世界初、OCTと無散瞳眼底カメラを融合した三次元眼底像撮影装置。
その他製品では、ディスプレイの色や明るさなど画質評価に欠かせない光計測機器である超低輝度分光放射計。

基本戦略

利益ある持続的成長を実現し、真のグローバルトップを目指します

トプコンは、2013年度から2015年度の3年間の経営計画「中期経営計画2015」を策定しており、以下の3つの戦略を実行し、「ROE 20%」を目標とすることを掲げました。

1. 新事業の開拓(基盤事業の強化)
中計最終年度(2015年度)の新規事業の目標比率を設定しました。全社は40%、スマートインフラ・カンパニーは46%、ポジショニング・カンパニーは45%そしてアイケア・カンパニーは33%としました。

2. 破壊的戦略商品の上市

「中期経営計画2015」期間中に全社の“新製品投入”数を74機種(直近3ヶ年合計51機種)に増加させます。その中でも、破壊的戦略商品は5機種から10機種に倍増する計画です。

3. グローバル人材の積極的活用

現在のトプコングループは、全社員の60%が日本人以外で構成されています。中でも、米国に本社のあるポジションカンパニーは98%が日本人以外で構成されており、適材適所をグローバルに展開しています。

当社グループは、事業のEnhancement(発展)をスピードアップする事により、利益およびキャッシュフローの創出を行い競合メーカーとの競争に勝ち抜くとともに、2011年4月に制定したTOPCON WAYの思想に基づいた企業風土の改革を進めて利益ある持続的成長を実現してまいります。またTM-1(Time to Market No.1)活動を更に強力に推進し、製造業の原点である「モノづくりを追求」する事により、グローバルな競争力を保持する真のグローバルトップを目指してまいります。

関連情報

- ◆ [中期経営計画2015](#)
- ◆ [会社紹介ビデオ](#)

Copyright © 1997-2013 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.

スマートインフラ・カンパニー



Change the World

創業以来培ってきたトプコンの光学技術をベースに、最先端のGPS 技術、レーザー技術、画像解析技術を融合し、世界を牽引する革新的なポジショニング製品を提供します。

また、主要市場である新興国市場においては、大規模なインフラ投資が多数計画されており、大きなビジネスチャンスが期待できます。

主な製品

測量・建設

トータルステーション／レーザー／セオドライト／レベル

トプコンのトータルステーションは、グローバルマーケットで高いシェアを誇る代表的な製品であり、時代とともに多機能・多用途な製品が求められる中、絶えず革新的な技術開発で製品ラインアップを充実化しています。2012 年より「TSshield」を導入、新開発の多機能通信モジュールを使って、稼働状況やトラブル情報を自動的に蓄積、お客様のトータルステーションを遠隔から見守り、適切な運用情報の提供と迅速なサポートサービスを可能にする唯一無比のクラウド型のサポートサービスを開始しました。

- ◆トータルステーションの詳しい製品紹介はこちら→ [TOPCON/ SOKKIA](#)
- ◆レーザー製品の詳しい紹介はこちら→ [TOPCON / SOKKIA](#)
- ◆セオドライト／レベルの詳しい製品紹介はこちら→ [TOPCON/ SOKKIA](#)

関連情報・TSshield→ [TOPCON/ SOKKIA](#)



3D計測

イメージングトータルステーション／3Dレーザーキャナー／3Dステーション／オートジャイロステーション

建築・構造物などの維持・管理・メンテナンスなどの目的で3次元データを取る業務が年々拡大しています。当社は非接触で高精度に3次元データを取得できる3Dレーザーキャナーや、トータルステーションにデジタルカメラと簡易スキャナー機能を搭載したイメージングステーションなど顧客ニーズに合致した製品を世の中に送り出してきました。更に大型構造物の寸法・形状、トンネルや建造物の変形・変位を高精度に計測するソキアブランドの3Dステーション NET シリーズをラインアップに加え、多彩なソリューションを提供しております。

- ◆イメージングトータルステーションの詳しい製品紹介はこちら→ [TOPCON](#)
- ◆3Dレーザーキャナーの詳しい製品紹介はこちら→ [TOPCON](#)



- ◆3Dステーションの詳しい製品紹介はこちら→ [SOKKIA](#)
- ◆オートジャイロステーションの詳しい製品紹介はこちら→ [SOKKIA](#)

モバイル3D計測

トプコンは高精度に絶対位置を計測するGNSS(GPS+GLONASS) 技術に、様々なセンサーを融合した車載型3D移動体計測システムIP-S2シリーズを開発しました。IP-S2は走行するだけで、走行路線の正確な位置データおよび姿勢データ、走行路線周辺の連続画像と3次元形状をカラー3次元点群データとして高速に取得できます。また、IP-S2 Lite は計測車両に360° 全周カメラ、IMU(慣性計測装置)の最小限のセンサーだけを搭載、走行路線周辺の360° 動画を取得できます。3D形状情報と画像情報を組み合わせることにより、様々な対象物の特定・把握・抽出を容易に行うことが可能となり、高効率かつ低コストでの3次元空間データの取得を実現しました。



- ◆IP-S2シリーズの詳しい製品紹介はこちら→ [TOPCON](#)

[関連情報](#)・[360VR 活用事例リンク集/WEBコンテンツサンプル集](#)

関連情報

- ◆ [中期経営計画](#)
- ◆ [製品情報](#)
- ◆ [動画一覧-TOPCON](#)
- ◆ [動画一覧-SOKKIA](#)
- ◆ [会社紹介ビデオ-ポジショニング](#) (別ウィンドウで開きます)

Copyright © 1997-2013 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.

ポジショニング・カンパニー

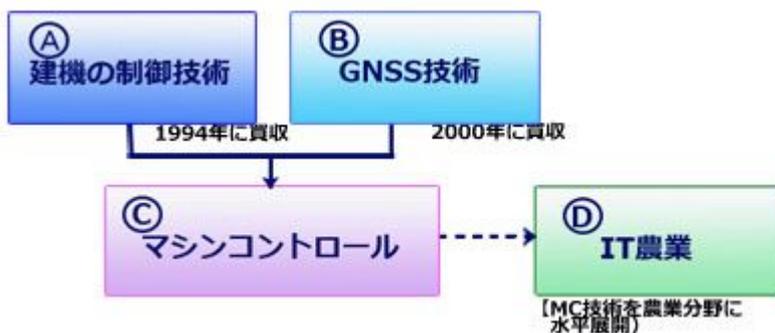


Technology for an expanding world

GNSS測量、マシンコントロール、精密農業など高精度GNSS測位技術を利用した製品やシステムをグローバルに展開しています。

技術のバックグラウンドは、1994年に買収したマシン制御技術、2000年に買収したGPS技術に立脚しています。

トプコンが世界で初めて世に送り出したセンチメートル精度で高速・高精度に測位可能なGNSSシステム、先進国における作物の生育状態の計測などをはじめとするセンサーやアプリケーションは、生産性と環境保全の新しいスタンダードとなっています。



主な製品

GNSS

トプコンのGNSS受信機は、全ての測位衛星が受信可能なユニバーサルトラッキング技術を使用しており、GNSS衛星の信号を最適化して自動受信します。また、グローバル体制で開発されるソフトウェアは、世界中の測量、土木、建設のあらゆるユーザーニーズに対応しています。

◆GNSS受信機等の詳しい製品紹介はこちら→ [TOPCON/ SOKKIA](#)



土木・建築

施工現場のあらゆる種類の建設機械にレーザー、GNSS受信機、トータルステーション、mmGPSなどのセンサーと油圧制御システムを取り付け、建設機械を設計データ通りに制御可能な「マシンコントロールシステム」を提供、世界中の施工現場で高い評価を得ています。

◆マシンコントロールシステムの詳しい製品紹介はこちら→ [TOPCON](#)

技術情報・・・[マシンコントロールシステムの仕組み](#)



精密農業

トプコンの先進的なGNSSと制御技術を適用した農機の自動化・IT化は、あらゆる規模の農場の作業を改善し、世界中の農場で活躍しています。当社の革新的なシステムを農機に搭載することで、作業機の制御や作物の監視から土地の整地作業まで、環境への影響を最小限に抑えることができます。



ポジショニング・カンパニー ウェブサイト

- ・ [Topcon Positioning Systems, Inc.のウェブサイトへ](#) (英語)
- ・ [Topcon Precision Agriculture Pty Ltd.のウェブサイトへ](#) (英語)

関連情報

- ◆ [中期経営計画](#)
- ◆ [製品情報](#)
- ◆ [会社紹介ビデオ-ポジショニング-](#) (別ウィンドウで開きます)

Copyright © 1997-2013 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.

アイケア・カンパニー



CONNECTING VISIONS

眼科医療機器の世界トップブランドとして、検査機器・診断機器・治療機器から眼科診療支援システム、眼科電子カルテシステムまで幅広い分野で商品を展開。最近は特にシステムソリューション、先端眼科医療機器の開発、糖尿病スクリーニングなど、予防医学分野へ注力しています。

主な製品

眼科機器

情報化社会の進展や高齢化の進展に伴い、視力の低下や眼病を患う方が世界規模で増加しています。特に眼の三大疾患といわれる「緑内障」、「糖尿病網膜症」、「加齢黄斑変性」は失明につながるおそれもあり、早期発見・早期治療が重要です。また、眼底は体内で血管を直接観察できる唯一の部位であり、動脈硬化や高血圧等、生活習慣病の検査としても有効です。快適な生活や健康を維持するために、眼の検査の重要性が高まっています。当社は先進の機器により高度な検査・診断・治療をサポートし、早期発見・早期治療に貢献しています。

- ◆ [診断機器の詳しい製品紹介はこちら](#)
- ◆ [手術・治療機器の詳しい製品紹介はこちら](#)

[関連情報](#)・[製品紹介動画](#)

[関連情報](#)・[イメージギャラリー](#)



眼科ITソリューション

病院の診療科目の中でも、特に眼科は検査項目が多く膨大なデータが発生するため、診療形態も複雑です。トプコンは、さまざまな検査・診断機器のデータ及び画像を一元管理する「眼科診療支援システム IMAGEnet™」や、受付から会計まで一貫したスムーズな診療業務をサポートする「電子カルテシステム」など、先進のITソリューションをご提供。スムーズな院内連携はもちろん、よりシームレスな地域医療ネットワークの実現に貢献します

- ◆ [診療ソリューションの詳しい紹介はこちら](#)

眼鏡店向機器



トプコンは、眼鏡店のお客様それぞれに応じた実生活のシーンで、見え具合のシミュレーションができる視力測定システムを開発。快適な見え具合をお客様に提供する眼鏡店をお手伝いします。また視力測定のコンサルティング支援に加えて、ファッションブルなフレームにフィットする仕上げが可能なレンズ加工機器を提供し、お客様と眼鏡店のいずれにもご満足いただいています。

- ◆ [屈折検査装置の詳しい製品紹介はこちら](#)
- ◆ [レンズ加工機器の詳しい製品情報はこちら](#)



関連情報

- ◆ [中期経営計画](#)
- ◆ [製品情報](#)
- ◆ [会社紹介ビデオ-アイケア-](#)(別ウインドウで開きます)

Copyright © 1997-2013 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.

品質保証活動

■総合品質保証方針

トプコンは、人類社会に貢献するとの経営理念に則って、関連する法令を遵守するとともに「顧客指向」及び「品質第一」に徹し、顧客が満足する高品質で安全な商品及びサービスを提供します。

トプコンは、市場に提供するすべての商品およびサービスについて、通常有すべき有益性と安全性の確保並びに法令及び契約に基づき瑕疵のない製品および役務を提供することを追及し、製造物責任(PL)事故および契約責任(CL)事故が生じないよう、不断の努力と最善の注意を払います。



■信頼の証:ISO9001認証取得

トプコンは、国際的な品質マネジメントシステムの規格である「ISO9001:2008」の認証を、事業分野(医用機器製品、海外向け測量機器製品、光学系ユニット製品)において、英国SGS United Kingdom Ltd Systems & Services Certification(国内はSGSジャパン(株))より取得しています。

この認証取得は、トプコンの品質保証体制が国際的に認められている証です。

トプコングループは、「ISO9001」の認証取得・維持を通じて開発・製造から販売・アフターサービスに至るまで“顧客第一”“品質第一”を目指し、常に改善を進めています。

今後も現状に満足することなく、より信頼される商品及びサービスを提供する努力を続け、国際企業としての責務を果たしていく所存であります。



認証登録の詳細については、こちらをご覧ください

・JAB審査登録証(写し)  [677KB]

・UKAS Certificate (copy)  [649KB]



(別ウィンドウで開きます)

PDFファイルをご覧いただくにはAdobe Acrobat Readerが必要です。
[Acrobat Reader](#)はアドビシステムズ社より無償配布されています。

資材基本方針

◆基本方針

公平、公正な調達活動

- ・ 新しいお取引は、全てのお取引先に対し、オープンで、公平、公正な調達活動に努めます。
- ・ お取引先の決定は、品質、価格、納期の確実性、技術水準、経営の安定性及び環境への配慮等、総合的かつ客観的な評価と手続きに基づいて決定致します。

共存、共栄に努めます

- ・ お取引先とは、お取引を通じて、常に信頼関係を維持・促進し、共存、共栄に努めます。

遵法の原則

- ・ 私達は、法律、社会規範を遵守し、健全な商習慣に則り取引を行います。

情報の管理・保護

- ・ 私達の購買活動によるお取引先とのお互いの機密情報は、外部に一切公開致しません。

◆資材調達の取組み





Junkan Workers Club

■ 循環型社会研究会(略称:循環研)ホームページへようこそ！！ ■

[循環研について](#)

[出版物のご案内](#)

[入会のご案内](#)

循環研は、次世代に継承すべき自然生態系と調和した循環型社会のあり方を地球的視点から考察し、地域における市民、事業者、行政の循環型社会形成に向けた取り組みの研究、支援、実践およびそのための交流を行うことを目的に活動するNPO法人です。

セミナー

今後開催されるセミナー案内や過去のセミナーの活動報告はこちらです

フィールドワーク

今後のフィールドワークの予定や過去のフィールドワーク報告はこちらです

ワークショップ

各種ワークショップの紹介や活動報告はこちらです



What's New !? (循環研からのお知らせ・最新情報)

- ・【[棚田・森づくりワークショップ](#)】2013年度の[草刈作業](#)の様子をアップしました。(2013/7/8) 
- ・【[循環ワーカー養成講座](#)】2013年度の第2回[循環ワーカー養成講座](#)を7月19日(金)に開催いたします。皆様からのご参加をお待ちしております。(2013/6/29) 
- ・【[循環ワーカー養成講座](#)】2013年6月28日(金)に2013年度[循環ワーカー養成講座](#)『人間の安全保障』の第1回目を開催しました。ご参加くださいました皆様、ありがとうございました。(2013/6/28)
- ・【[循環ワーカー養成講座](#)】2013年度の[循環ワーカー養成講座](#)の案内をアップしました。皆様からのご参加をお待ちしております。(2013/5/31)
- ・【[循環研セミナー](#)】2013年5月30日(木)に循環研セミナー「持続可能な社会モデルとしてのコスタリカ視察報告」を開催しました。ご出席くださいました皆様、ありがとうございました。(2013/5/31)
- ・【[ぶどうプロジェクト](#)】2013年5月4日(月)の[ぶどう苗の様子](#)をアップしました。(2013/5/24)
- ・【[循環研セミナー](#)】2013年5月30日(木)に[循環研セミナー「持続可能な社会モデルとしてのコスタリカ視察報告」](#)が開催されます。ふるってご参加くださいませ。(2013/5/7)
- ・【[循環研通信](#)】第37号が「[出版物のご案内](#)」より、PDFにてご覧いただけるようになりました。(2013/4/24)
- ・【[ぶどうプロジェクト](#)】4月6日(土)に[ぶどう苗植樹会](#)が開催されました。ご参加された皆様、ごろうさまでした。(2013/04/08)
- ・【[ぶどうプロジェクト](#)】[ぶどう苗の植樹会準備の様子](#)をアップしました。(2013/03/27)
- ・【[ぶどうプロジェクト](#)】[循環研10周年記念事業のぶどうプロジェクト](#)が始まりました。(2013/03/25)

[過去の「What'sNew!？」はこちらをご覧ください。](#)

オピニオン (提言) 循環研の活動を通じて出されたオピニオン (提言) です。

- ・ [提言:中央区における温室効果ガス削減シナリオ](#)[PDF] (2012/04/06) 
- ・ [提言:エココミュニティとしての日本再生2011.9.7](#)[PDF] (2011/09/07)
- ・ [エココミュニティの要件ver1](#)[PDF]、[エココミュニティの要件解説文書draft](#)[PDF] (2011/07/13)

・ [「循環型社会とは調和しない原子力発電」](#)[PDF](2011/03/24)

 **10周年記念事業 ぶどうプロジェクト** 循環研の活動10周年を記念した活動です。

【連絡先】特定非営利活動法人 循環型社会研究会
〒104-0034 東京都中央区京橋1-9-10フォレストタワー株式会社ノルド内 [\[地図\]](#)
TEL: 03-5524-7334 FAX: 03-5524-7332 E-mail: junkan@nord-ise.com

Copyright (C) Workers Club for Eco-harmonic Renewable Society (Junkan Workers Club) All rights reserved.

